

科目名	日本文化論			科目コード	21010		
英文名	Japanese Culture			科目区分	【専門科目】 日本理解専攻(必修)		
担当教員	岡庭 義行		教員コード	159	単位数	2単位	
開講期間	前期	曜日・時限	木曜日・2時限		授業形態	講義	
学位授与方針との対応	◎	1.大学生としての幅広い教養を身につける		○	2.学修を通じて得た専門的な知識を表現する		
	○	3.論理的・批判的なものの見方を養う		○	4.自己の潜在能力を発見し、問題を解決する		
	○	5.学習の過程で発見した課題を探索する		○	6.卒業後の社会生活を豊かに過ごす基礎を養う		
授業概要	本講は、日本文化の歴史と事例を概観し、主に社会学、人類学、民俗学等の視点から解説を試みることで、「日本文化」に関する総合的な理解を深めることを目的とする。						
授業の狙い・到達目標	[到達目標①] 日本文化の固有性について、講義で解説した用語を用いて説明することができる。 [到達目標②] 日本文化の複層性について、具体的な事例を用いて説明することができる。 [到達目標③] 自文化と異文化との比較の中で、日本の文化と社会を相対化することができる。						
授業内容のレベル・関連科目	身近な日本の文化や社会に関心を持ち、自己の意見をまとめておくこと。日本の歴史、社会、文化等に関する関連科目を併せて学習することが望ましい。						
授業外学習(予習・復習)	[事前学習] 各回の講義テーマに自己の関心をつきながら、日本文化の多様な事例と日常的社会的経験を整理しておくこと。 [事後学習] 講義で学んだ事項を振り返り、体系化して理解の深化に努めること。			授業外学習に必要な時間	各回4時間、合計60時間		
使用教科書	特になし						
参考書・その他教材	・中川裕『アイヌ文化で読み解く「ゴールデンカムイ」』集英社(2019) ・和智正喜『ウルトラマンの愛した日本』宝島社新書(2013) ・船曳建夫『柳田国男』筑摩書房(2000)						
課題に対するフィードバック	小課題・リアクションペーパーはコメントをつけて返却し、適宜、関連資料を付して解説する。						
成績評価方法	・課題レポート[到達目標①②](50%)、 ・講義中の小課題・リアクション・ペーパー[到達目標③](30%)、 ・講義への参加状況(20%)						
成績評価基準	学習の到達目標にどのくらい到達したかを本学の学業成績判定に関する規程の基準に基づき評価する。						
履修上の注意事項や学習上の助言	日本の文化や社会に関する理解を通して、自己を見つめなおし、豊かな生活と適切な社会の結びつきについて、ともに考えていくことが期待されます。						
科目に関連した教員の業務経験	特になし						
担当教員への連絡方法	メールでの質問(okaniwa@aikoku-u.org)、またはオフィスアワー(新年度に掲示)。授業終了後に、直接聞くことも可。						

授業スケジュール

日本文化論

1回	学習内容 予習 復習	イントロダクションー日本文化の古層を探るー シラバスを精読し講義の概要と方法について確認しておくこと。 講義の目的や内容について確認し、以降の講義の目標と展望を深める。
2回	学習内容 予習 復習	日本文化の古層ー神話的世界観ー 「古事記」「日本書紀」などの日本神話をあらかじめ概観しておくこと。 日本社会の形成に神話が果たした役割と歴史について振り返り、理解を深める。
3回	学習内容 予習 復習	年中行事と信仰・伝承 日本各地に看取される伝統的な年中行事を1つ以上調べておくこと。 年中行事の意味について振り返り、その文化的体系性について理解を深める。
4回	学習内容 予習 復習	通過儀礼 日本各地に看取される通過儀礼の事例について1つ以上調べておくこと。 通過儀礼の構造について振り返り、人間の成長に伴う各儀礼について理解を深める。
5回	学習内容 予習 復習	伝統的家族観と祖先祭祀 日本における「イエ」制度や家族の類型について調べておくこと。 日本の伝統的家族観とその変化について振り返り、家族の現代的課題について理解を深める。
6回	学習内容 予習 復習	食文化とタブー 日本人が「食べてよいもの」と「食べていけないもの」をそれぞれ1つ以上調べておくこと。 日本の食文化について振り返り、その歴史と構造について理解を深める。
7回	学習内容 予習 復習	分類の文化史 時間、空間、色彩、音などの領域において日本に固有な分類体系を1つ以上調べておくこと 講義を振り返り、日本における自然現象の分類の体系について理解を深める。
8回	学習内容 予習 復習	呪術、占術、予言 陰陽師に代表される日本文化における「呪術(witchcraft)」の事例を1つ以上調べておくこと。 日本における呪術や予言の歴史的特性について振り返りその社会的意義について理解を深める。
9回	学習内容 予習 復習	日本人論の古典「タテ社会の人間関係」と「甘えの構造」 講義で解説する2冊の日本人論について、事前に概観しておくこと それぞれの「日本人論」の特徴を概括し、現代の日本社会の特性について理解を深める。
10回	学習内容 予習 復習	小泉八雲「怪談」 小泉八雲の生涯を概観し、あらかじめ配布するテキストから1作品以上を通読しておくこと 小泉八雲(ラフカディオ・ハーン)のアイデンティティと日本文化の古層について理解を深める。
11回	学習内容 予習 復習	世界遺産と日本文化 世界遺産条約の概要を確認し、日本における世界遺産の事例を1つ以上調べておくこと。 世界遺産条約の現状と課題を振り返り国際社会における日本文化の評価について理解を深める。
12回	学習内容 予習 復習	日本のサブカルチャー 社会経済的に大きな影響力を持つ日本のサブカルチャーの事例を1つ以上調べておくこと。 講義を振り返り、日本経済におけるサブカルチャーの意義と課題について理解を深める。
13回	学習内容 予習 復習	日本文化の多様性ー北海道と沖縄ー 北海道と沖縄の文化的事象について1つ以上調べておくこと。 日本の歴史と地域性を理解を通して、日本文化の多様性について理解を深める。
14回	学習内容 予習 復習	世界の中の日本文化ー日本の中の世界文化 世界の中の日本文化と日本の中の世界文化をそれぞれ1つ以上調べておくこと 講義を振り返り、グローバル化に伴う日本文化の拡張と変容について理解を深める。
15回	学習内容 予習 復習	まとめ・総括ー拡張する日本文化ー これまでの講義を振り返り、可能な限り近接する講義や日常の問題意識に結びつけること。 学習内容を各自の学問的関心に接続させ、今後の学びを進展させていく。

科目名	日本語学概論 I			科目コード	21020	
英文名	Outline of Japanese Linguistics I			科目区分	【専門科目】 日本理解専攻(必修)	
担当教員	部田 和美		教員コード	153	単位数	2単位
開講期間	前期	曜日・時限	月曜日・3時限		授業形態	講義
学位授与方針との対応	◎	1.大学生としての幅広い教養を身につける		○	2.学修を通じて得た専門的な知識を表現する	
	○	3.論理的・批判的なものの見方を養う			4.自己の潜在能力を発見し、問題を解決する	
		5.学習の過程で発見した課題を探求する			6.卒業後の社会生活を豊かに過ごす基礎を養う	
授業概要	日常的な言語現象を観察し、なぜそのような使い方や言い方になるのか、そこにどのような規則があるのかについて学生自身が考え、日本語の言語学的特徴について学んでいく。Iでは主に助詞や文の組み立て、時制、モダリティといった、日本語学の基礎的な文法を扱う。					
授業の狙い・到達目標	日本語を「外国語」として客観的に捉えられるようになる。日常で何気なく使っている日本語からその言語的特徴を見出し理解することで、日本語について外国人にも分かりやすく説明できるような知識を身に付けることができる。また、普段から見聞きする言葉に意識を向け、疑問を持ったり答えを導き出したしたりする思考力を身につけることができる。					
授業内容のレベル・関連科目	留学生は基礎的な日本語文法の知識が必要 関連科目：日本語学概論II					
授業外学習(予習・復習)	予習)教員が指示する次回テーマに関する課題をする。 復習)授業の復習となるまとめ課題を次週までに作成する。			授業外学習に必要な時間	各回4時間、 合計60時間	
使用教科書	教員が準備したプリントを使用。					
参考書・その他教材	『日本語要説改訂版』ひつじ書房 益岡隆志・田窪行則『基礎日本語文法改訂版』くろしお出版 庵功雄『新しい日本語入門第2版』スリーエーネットワーク					
課題に対するフィードバック	宿題の復習課題を全員で確認し、簡単な復習テストを行う。					
成績評価方法	期末テスト70%、課題提出と復習テスト30%					
成績評価基準	学習の到達目標にどのくらい到達したかを本学の学業成績判定に関する規程の基準に基づき評価する。					
履修上の注意事項や学習上の助言	普段から身の回りで使われている日本語を観察し問題意識を持つこと。留学生は講義内容をより確実に理解するため、基本的な日本語文法はしっかり身に付けておくこと。					
科目に関連した教員の業務経験	特になし					
担当教員への連絡方法	torita@aikoku-u.org					

授業スケジュール

日本語学概論 I

1回	学習内容 予習 復習	イントロダクション「日本語学」とは？「は」と「が」① シラバスの内容を確認しておく 教員が提示した復習課題を行う
2回	学習内容 予習 復習	「は」と「が」② 格助詞 前の週に教員が出した課題をしておく 教員が提示した復習課題を行う
3回	学習内容 予習 復習	自動詞・他動詞 前の週に教員が出した課題をしておく 教員が提示した復習課題を行う
4回	学習内容 予習 復習	ヴォイス①受動態 前の週に教員が出した課題をしておく 教員が提示した復習課題を行う
5回	学習内容 予習 復習	ヴォイス②可能態 前の週に教員が出した課題をしておく 教員が提示した復習課題を行う
6回	学習内容 予習 復習	ヴォイス③使役態 前の週に教員が出した課題をしておく 教員が提示した復習課題を行う
7回	学習内容 予習 復習	時制①テンス 前の週に教員が出した課題をしておく 教員が提示した復習課題を行う
8回	学習内容 予習 復習	時制②アスペクト 前の週に教員が出した課題をしておく 教員が提示した復習課題を行う
9回	学習内容 予習 復習	モダリティ① 前の週に教員が出した課題をしておく 教員が提示した復習課題を行う
10回	学習内容 予習 復習	モダリティ② 前の週に教員が出した課題をしておく 教員が提示した復習課題を行う
11回	学習内容 予習 復習	とりたて 前の週に教員が出した課題をしておく 教員が提示した復習課題を行う
12回	学習内容 予習 復習	指示詞 前の週に教員が出した課題をしておく 教員が提示した復習課題を行う
13回	学習内容 予習 復習	授受① 前の週に教員が出した課題をしておく 教員が提示した復習課題を行う
14回	学習内容 予習 復習	授受② 前の週に教員が出した課題をしておく 教員が提示した復習課題を行う
15回	学習内容 予習 復習	これまでのまとめ これまでの内容で不明な点があればまとめておく 教員が提示した復習課題を行う

科目名	日本語学概論Ⅱ			科目コード	21030		
英文名	Outline of Japanese Linguistics II			科目区分	【専門科目】 日本理解専攻(選択)		
担当教員	部田 和美		教員コード	153	単位数	2単位	
開講期間	後期	曜日・時限	月曜日・3時限		授業形態	講義	
学位授与方針との対応	◎	1.大学生としての幅広い教養を身につける		○	2.学修を通じて得た専門的な知識を表現する		
	○	3.論理的・批判的なものの見方を養う			4.自己の潜在能力を発見し、問題を解決する		
		5.学習の過程で発見した課題を探求する			6.卒業後の社会生活を豊かに過ごす基礎を養う		
授業概要	日常的な言語現象を観察し、なぜそのような使い方や言い方になるのか、そこにどのような規則があるのかについて学生自身が考え、日本語の言語学的特徴について学んでいく。Ⅱでは主に文章や談話に見られる文法や、社会と言語について扱う。						
授業の狙い・到達目標	日本語を「外国語」として客観的に捉えられるようになる。日常で何気なく使っている日本語からその言語的特徴を見出し理解することで、日本語について外国人にも分かりやすく説明できるような知識を身に付けることができる。また、普段から見聞きする言葉に意識を向け、疑問を持ったり答えを導き出したしたりする思考力を身につけることができる。						
授業内容のレベル・関連科目	留学生は日本語文法の知識が必要 関連科目：日本語学概論Ⅰ						
授業外学習(予習・復習)	予習)教員が指示する次回テーマに関する課題をする。 復習)授業の復習となるまとめ課題を次週までに作成する。			授業外学習に必要な時間	各回4時間、 合計60時間		
使用教科書	教員が準備したプリントを使用。						
参考書・その他教材	『日本語要説改訂版』ひつじ書房 益岡隆志・田窪行則『基礎日本語文法改訂版』くろしお出版 庵功雄『新しい日本語入門第2版』スリーエーネットワーク						
課題に対するフィードバック	宿題の復習課題を全員で確認し、簡単な復習テストを行う。						
成績評価方法	期末テスト70%、課題提出等30%						
成績評価基準	学習の到達目標にどのくらい到達したかを本学の学業成績判定に関する規程の基準に基づき評価する。						
履修上の注意事項や学習上の助言	普段から身の回りで使われている日本語を観察し問題意識を持つこと。留学生は講義内容をより確実に理解するため、基本的な日本語文法はしっかり身に付けておくこと。						
科目に関連した教員の業務経験	特になし						
担当教員への連絡方法	torita@aikoku-u.org						

授業スケジュール

日本語学概論Ⅱ

1回	学習内容 予習 復習	イントロダクション 日本語の語彙 シラバスをよく読んでおく 教員が提示した復習課題を行う
2回	学習内容 予習 復習	文章表現①文体 前の週に教員が出した課題をしておく 教員が提示した復習課題を行う
3回	学習内容 予習 復習	文章表現②複文(1) 前の週に教員が出した課題をしておく 教員が提示した復習課題を行う
4回	学習内容 予習 復習	文章表現③複文(2)条件節 前の週に教員が出した課題をしておく 教員が提示した復習課題を行う
5回	学習内容 予習 復習	文章表現④名詞修飾 前の週に教員が出した課題をしておく 教員が提示した復習課題を行う
6回	学習内容 予習 復習	話し言葉の特徴 前の週に教員が出した課題をしておく 教員が提示した復習課題を行う
7回	学習内容 予習 復習	ポライトネス① 前の週に教員が出した課題をしておく 教員が提示した復習課題を行う
8回	学習内容 予習 復習	ポライトネス②敬語(1) 前の週に教員が出した課題をしておく 教員が提示した復習課題を行う
9回	学習内容 予習 復習	ポライトネス③敬語(2) 前の週に教員が出した課題をしておく 教員が提示した復習課題を行う
10回	学習内容 予習 復習	社会と言語①言葉のゆれ(1) 前の週に教員が出した課題をしておく 教員が提示した復習課題を行う
11回	学習内容 予習 復習	社会と言語②言葉のゆれ(2) 前の週に教員が出した課題をしておく 教員が提示した復習課題を行う
12回	学習内容 予習 復習	社会と言語③位相 前の週に教員が出した課題をしておく 教員が提示した復習課題を行
13回	学習内容 予習 復習	社会と言語④若者言葉 前の週に教員が出した課題をしておく 教員が提示した復習課題を行う
14回	学習内容 予習 復習	他言語と日本語の対照 前の週に教員が出した課題をしておく 教員が提示した復習課題を行う
15回	学習内容 予習 復習	これまでのまとめ これまでの内容で不明な点があればまとめておく 教員が提示した復習課題を行う

科目名	日本史学概論（史学概論）			科目コード	21040	
英文名	Outline of Japanese History (Outline of History)			科目区分	【専門科目】 日本理解専攻(選択)	
担当教員	梶原 健嗣		教員コード	145	単位数	2単位
開講期間	後期	曜日・時限	火曜日・1時限	授業形態	講義	
学位授与方針との対応	◎	1.大学生としての幅広い教養を身につける	○	2.学修を通じて得た専門的な知識を表現する		
	○	3.論理的・批判的なものの見方を養う		4.自己の潜在能力を発見し、問題を解決する		
		5.学習の過程で発見した課題を探求する	○	6.卒業後の社会生活を豊かに過ごす基礎を養う		
授業概要	本講義は、日本の近現代史である。幕末の開国の時期から現代まで日本の歴史を、政治及び外交分野を中心に概説する。「概論」講義であり、教養レベルとして必須の事項を概説する。					
授業の狙い・到達目標	講義は前半が戦前、後半が戦後である。前半では、明治憲法体制と5度の対外戦争を中心に学習していく。後半の戦後でも、対外関係を中心に学習し、前半の学習と対応させる。その結果、日本と国際社会の位置づけを歴史的に理解できるようになる。					
授業内容のレベル・関連科目	概論講義であり、それほど専門的なものは求めない。関連科目としては、同じ近現代史である日本社会史(歴史と現代Ⅰ)が最も関連が深い。ついで、歴史と現代(歴史と現代Ⅱ)が関連が深い。併せて履修することで、理解が深まるものと考え。					
授業外学習(予習・復習)	高校までの教科書でいうと、「日本史A」と同じ範囲である。その復習が講義をスムーズに理解するうえで有用である。また、講義レジュメの参照資料URLをたどってみると、発展的な復習になる。			授業外学習に必要な時間	各回4時間、合計60時間	
使用教科書	教員が自作のレジュメを用意し、教科書は使用しない。					
参考書・その他教材	特になし。 ただ、講義レジュメに引用した資料などは、できれば帰宅後の復習のなかで参照してほしい。					
課題に対するフィードバック	特になし。 講義中に行う小テストは、その場で解説する。					
成績評価方法	平常点15%、筆記試験85%(中間テスト(20%)含む)					
成績評価基準	授業の狙いあげた学習到達目標にどのくらい到達したかを、本学の「学業成績判定に関する規程の基準」に基づき評価する。					
履修上の注意事項や学習上の助言	復習をきちんとすること。特に、小テストの復習は入念に。 講義とはいは、 「なぜ?」という問いを大事にしながら学習すること。					
科目に関連した教員の実務経験	特になし					
担当教員への連絡方法	メールでの質問(kajiwara@aikoku-u.org)、またはオフィスアワー(新年度に掲示)。もちろん授業終了後に、直接聞くことも可。					

授業スケジュール

日本史学概論（史学概論）

1回	学習内容 予習 復習	イントロダクション、講義の概要やテストの方法などを説明する。 シラバスをよく読んでおくこと。 配布したレジュメを見返すとともに、左ページ「授業外学習」で例示した復習をすること。
2回	学習内容 予習 復習	江戸時代について概説し、幕末に至る歴史を理解する。 戦国時代から江戸時代に至る流れについて、自分なりに調べてみる。 最低限、配布したレジュメ、小テストを見直すこと。
3回	学習内容 予習 復習	開国から明治維新に至るまでの政治過程を概説する。 明治維新と幕末の騒乱について、自分なりに調べてみる。 最低限、配布したレジュメ、小テストを見直すこと。
4回	学習内容 予習 復習	明治国家の形成と発展を、「明治憲法体制」として概説する。 自由民権運動や大日本帝国憲法について、自分なりに調べてみる。 最低限、配布したレジュメ、小テストを見直すこと。
5回	学習内容 予習 復習	近代日本最初の対外戦争である日清戦争、またその後の日露戦争の意義を概説する。 日清、日露戦争や19世紀末の日本につき、自分なりに調べてみる。 最低限、配布したレジュメ、小テストを見直すこと。
6回	学習内容 予習 復習	第1次世界大戦の経緯・意義を、日本及びアジアを中心に概説する。 第1次世界大戦の展開につき、自分なりに調べてみる。 最低限、配布したレジュメ、小テストを見直すこと。
7回	学習内容 予習 復習	大正期の日本社会を、シベリア出兵そして関東大震災を中心に概説する。 関東大震災の政治・社会・経済的な意義(影響)について、自分なりに調べてみる。 最低限、配布したレジュメ、小テストを見直すこと。
8回	学習内容 予習 復習	第2次世界大戦の経緯・意義を、日本及びアジアを中心に概説する。 第2次世界大戦の展開につき、自分なりに調べてみる。 最低限、配布したレジュメ、小テストを見直すこと。
9回	学習内容 予習 復習	前半のまとめ。中間テスト形式で、第2回～第8回までの講義をおさらいする。 第2回～第8回までの講義を改めて復習してくること。 最低限、配布したレジュメ、小テストを見直すこと。
10回	学習内容 予習 復習	占領下で成立した戦後体制を概説する。概ね、昭和20年代が講義内容となる。 占領下の日本のできごとにつき、自分なりに調べてみる。 最低限、配布したレジュメ、小テストを見直すこと。
11回	学習内容 予習 復習	高度成長と55年体制の成立を概説する。概ね、昭和30年代が講義内容となる。 55年体制を構成した自民党、社会党について、自分なりに調べてみる。 最低限、配布したレジュメ、小テストを見直すこと。
12回	学習内容 予習 復習	ソ連、韓国、中国との国交回復過程をたどり、日本の「戦後処理」について概説する。 日本の戦後外交について、自分なりに調べてみる。 最低限、配布したレジュメ、小テストを見直すこと。
13回	学習内容 予習 復習	世界的には冷戦崩壊、国内的には55年体制の崩壊だった1990年代を概説する。 1990年代の世界的な動向について、自分なりに調べてみる。 最低限、配布したレジュメ、小テストを見直すこと。
14回	学習内容 予習 復習	グローバル化と日本社会の変容をテーマに、平成以降の時代を概説する。 平成以降の日本社会の変容について、自分なりに調べてみる。 最低限、配布したレジュメ、小テストを見直すこと。
15回	学習内容 予習 復習	後半のまとめ。中間テスト形式で、第10回～第14回までの講義をおさらいする。 第9回～第14回までの講義を改めて復習してくること。 最低限、配布したレジュメ、小テストを見直すこと。

科目名	日本社会史（歴史と現代Ⅰ）			科目コード	21050		
英文名	Social History of Japan (History and Contemporary Society Ⅰ)			科目区分	【専門科目】 日本理解専攻(選択)		
担当教員	梶原 健嗣		教員コード	145	単位数	2単位	
開講期間	前期	曜日・時限	火曜日・2時限		授業形態	講義	
学位授与方針との対応	◎	1.大学生としての幅広い教養を身につける		2.学修を通じて得た専門的な知識を表現する			
	○	3.論理的・批判的なものの見方を養う		4.自己の潜在能力を発見し、問題を解決する			
		5.学習の過程で発見した課題を探求する		6.卒業後の社会生活を豊かに過ごす基礎を養う			
授業概要	政治史・外交史の分野で日本の近現代を学ぶ日本史学概論(史学概論)に対して、本講義では社会経済史として、日本の近現代史を学ぶ。						
授業の狙い・到達目標	前半では、プレモダンとしての江戸時代から講義を始め、明治時代を中心に日本の近代化を概説する。後半の戦後社会では、現代社会の様々な問題の起源を探る形で、テーマ別に戦後史を概説する。そのような学修を通じて、歴史的に形成されてきた現代を理解できるようになる。						
授業内容のレベル・関連科目	日本理解・専門科目であり、若干、発展的な内容を含む。日本史学概論(史学概論)や日本文化入門の講義は、基礎学習の意味をもつ。また、歴史と現代(歴史と現代Ⅱ)をあわせて受講することで、理解が深まるものと考えられる。						
授業外学習(予習・復習)	日本文化入門(後半部分)、日本史学概論、歴史と現代が、本講義の関連科目である。これらの講義を併せて履修する学生が、その講義レジュメを参照することが、有益な予復習となる。			授業外学習に必要な時間	各回4時間、合計60時間		
使用教科書	教員が自作のレジュメを用意し、教科書は使用しない。						
参考書・その他教材	特になし。 ただ、講義レジュメに引用した資料などは、できれば帰宅後の復習のなかで参照してほしい。						
課題に対するフィードバック	特になし。 講義中に行う小テストは、その場で解説する。						
成績評価方法	平常点15%、筆記試験85%(中間テスト(20%)含む)						
成績評価基準	授業の狙いこあげた学習到達目標にどのくらい到達したかを、本学の「学業成績判定に関する規程の基準」に基づき評価する。						
履修上の注意事項や学習上の助言	復習をきちんとすること。特に、小テストの復習は入念に。 講義とはいえ、「なぜ?」という問いを大事にしながら学習すること。						
科目に関連した教員の業務経歴	特になし						
担当教員への連絡方法	メールでの質問(kajiwara@aikoku-u.org)、またはオフィスアワー(新年度に掲示)。もちろん授業終了後に、直接聞くことも可。						

授業スケジュール

日本社会史（歴史と現代Ⅰ）

1回	学習内容 予習 復習	イントロダクション、講義の概要やテストの方法などを説明する。 シラバスをよく読んでおくこと。 配布したレジュメを見返すとともに、左ページ「授業外学習」で例示した復習をすること。
2回	学習内容 予習 復習	江戸時代①、近代的発展の基礎が築かれた時代として、江戸時代を捉え直す。 Pre-Modernとしての江戸時代とはどういうことか、自分なりに調べてみる。 最低限、配布したレジュメ、小テストを見直すこと。
3回	学習内容 予習 復習	江戸時代②、開国に至る流れを概説し、明治期の国際化を学ぶ基礎を概説する。 開国から幕末の騒乱の時期について、社会・経済の視点から、自分なりに調べてみる。 最低限、配布したレジュメ、小テストを見直すこと。
4回	学習内容 予習 復習	明治時代①、開国と国際化・近代化を概説し、明治維新の社会経済的意義を理解する。 開国後の混乱、社会の変容について、自分なりに調べてみる。 最低限、配布したレジュメ、小テストを見直すこと。
5回	学習内容 予習 復習	明治時代②、殖産興業をキーワードに、明治前期の社会経済史を概説する。 富岡製糸場など、殖産興業の時代を代表する工場等について、自分なりに調べてみる。 最低限、配布したレジュメ、小テストを見直すこと。
6回	学習内容 予習 復習	明治時代③、明治時代を中心に、戦前の産業・交通の発展を概説する。 第4～5回のレジュメを見返すとともに、参考資料から発展的復習をしておくこと。 最低限、配布したレジュメ、小テストを見直すこと。
7回	学習内容 予習 復習	大正時代、都市化と交通の発展、関東大震災とその影響、植民地統治などを概説する。 大正時代の都市生活と社会・文化について、自分なりに調べてみる。 最低限、配布したレジュメ、小テストを見直すこと。
8回	学習内容 予習 復習	前半のまとめ。中間テスト形式で、第2回～第7回までの講義をおさらいする。 第2回～第7回までの講義を改めて復習してくる。 最低限、配布したレジュメ、小テストを見直すこと。
9回	学習内容 予習 復習	戦後史①、戦後復興史の概説。第10回以降の講義の基礎となる概説を行う。 戦後史の基本的な流れを、自分なりに学習してみる。 最低限、配布したレジュメ、小テストを見直すこと。
10回	学習内容 予習 復習	戦後史②、過疎化・過密化をテーマに、戦後社会の課題を概説する。 戦後日本の人口移動について、東京圏を中心に学習してみる。 最低限、配布したレジュメ、小テストを見直すこと。
11回	学習内容 予習 復習	戦後史③、都市化と公害をテーマに、戦後社会の課題を解説する。 四大公害病について、自分なりに調べてみる。 最低限、配布したレジュメ、小テストを見直すこと。
12回	学習内容 予習 復習	戦後史④、戦後日本の災害(水害、震災)をテーマに、戦後社会の課題を概説する。 戦後の主要な災害について、自分なりに調べてみる。 最低限、配布したレジュメ、小テストを見直すこと。
13回	学習内容 予習 復習	戦後史⑤、少子高齢化をテーマに、戦後社会の課題を概説する。 少子高齢化の何が問題か、自分なりに調べてみる。 最低限、配布したレジュメ、小テストを見直すこと。
14回	学習内容 予習 復習	戦後史⑥、国際化・グローバル化をテーマに、戦後社会の課題を概説する。 日本社会が、現在どれほどグローバル化しているか、自分なりに調べてみる。 最低限、配布したレジュメ、小テストを見直すこと。
15回	学習内容 予習 復習	後半のまとめ。中間テスト形式で、第9回～第14回までの講義をおさらいする。 第9回～第14回までの講義を改めて復習してくる。 最低限、配布したレジュメ、小テストを見直すこと。

科目名	歴史と現代（歴史と現代Ⅱ）			科目コード	21060	
英文名	History and Contemporary Society (History and Contemporary Society Ⅱ)			科目区分	【専門科目】 日本理解専攻(選択)	
担当教員	梶原 健嗣		教員コード	145	単位数	2単位
開講期間	後期	曜日・時限	火曜日・2時限	授業形態	講義	
学位授与方針との対応	◎	1.大学生としての幅広い教養を身につける		2.学修を通じて得た専門的な知識を表現する		
	○	3.論理的・批判的なものの見方を養う		4.自己の潜在能力を発見し、問題を解決する		
		5.学習の過程で発見した課題を探索する		○	6.卒業後の社会生活を豊かに過ごす基礎を養う	
授業概要	日本社会史(歴史と現代Ⅰ)が、江戸時代からの社会経済史を通史的に概説したのに対して、本講義では地域史として、現代社会につながる「歴史」を概説する。					
授業の狙い・到達目標	地域には様々な歴史の刻印がある。そうした歴史の刻印を掘り起こし、現代社会に生きる私たちが歴史を学ぶ意義を実感できる講義を目指す。そのような学修を通じ、日本社会の多様性、社会の重層的な発展に気が付けるようになる。					
授業内容のレベル・関連科目	日本理解専攻の専門科目であり、少し発展的な内容を含む。日本史学概論(史学概論)や日本文化入門の講義は、基礎学習の意味をもつ。また、日本社会史(歴史と現代Ⅰ)をあわせて受講することで、理解が深まるものと考えられる。					
授業外学習(予習・復習)	日本文化入門(後半部分)、史学概論、歴史と現代が、本講義の関連科目である。これらの講義を併せて履修する学生が、その講義レジュメを参照することが、有益な予復習となる。			授業外学習に必要な時間	各回4時間、合計60時間	
使用教科書	教員が自作のレジュメを用意し、教科書は使用しない。					
参考書・その他教材	特になし。 ただ、講義レジュメに引用した資料などは、できれば帰宅後の復習のなかで参照してほしい。					
課題に対するフィードバック	特になし。 講義中に行う小テストは、その場で解説する。					
成績評価方法	平常点15%、筆記試験85%(中間テスト(20%)含む)					
成績評価基準	授業の狙いあげた学習到達目標にどのくらい到達したかを、本学の「学業成績判定に関する規程の基準」に基づき評価する。					
履修上の注意事項や学習上の助言	復習をきちんとすること。特に、小テストの復習は入念に。 講義とはいえ、「なぜ?」という問いを大事にしながら学習すること。					
科目に関連した教員の実務経験	特になし					
担当教員への連絡方法	メールでの質問(kajiwara@aikoku-u.org)、またはオフィスアワー(新年度に掲示)。もちろん授業終了後に、直接聞くことも可。					

授業スケジュール

歴史と現代（歴史と現代Ⅱ）

1回	学習内容 予習 復習	イントロダクション、講義の概要やテストの方法などを説明する。 シラバスをよく読んでおくこと。 配布したレジュメを見返すとともに、左ページ「授業外学習」で例示した復習をすること。
2回	学習内容 予習 復習	【千葉県の歴史と現代①】北総地域の発展史を成田を中心に概説する。 「加曽利貝塚博物館・特別史跡加曽利貝塚」(Youtube)は、おすすめ。 最低限、配布したレジュメ、小テストを見直すこと。
3回	学習内容 予習 復習	【千葉県の歴史と現代②】北総地域の発展史を四街道・佐倉を中心に概説する。 大学正門前の碑に書かれている文字を読んでみる。 最低限、配布したレジュメ、小テストを見直すこと。
4回	学習内容 予習 復習	【江戸／東京の歴史と現代】家康入府以来の江戸(東京)の歴史を概説する。 東京の発展は災害と不即不離の関係にある。明暦の大火や関東大震災について、調べてみる。 最低限、配布したレジュメ、小テストを見直すこと。
5回	学習内容 予習 復習	【京都の歴史と現代】世界遺産「古都・京都の文化財」を中心に、その歴史を概説する。 世界遺産を構成する、古都・京都の文化財について、自分なりに調べてみる。 最低限、配布したレジュメ、小テストを見直すこと。
6回	学習内容 予習 復習	【大阪の歴史と現代】古代の難波津の時代から、商都・大阪の発展史を概説する。 大阪城築城以降の大阪の歴史について、自分なりに調べてみる。 最低限、配布したレジュメ、小テストを見直すこと。
7回	学習内容 予習 復習	【神戸の歴史と現代】大輪田泊から近代神戸、そして阪神大震災までを概説する。 阪神大震災が現代社会に与えた影響について、自分なりに調べてみる。 最低限、配布したレジュメ、小テストを見直すこと。
8回	学習内容 予習 復習	前半のまとめ。中間テスト形式で、第2回～第7回までの講義をおさらいする。 第2回～第7回までの講義を改めて復習してくる。 最低限、配布したレジュメ、小テストを見直すこと。
9回	学習内容 予習 復習	【横浜の歴史と現代】幕末の開港から、国際都市・横浜の150年を概説する。 横浜も関東大震災の影響は大きかった。関東大震災について、自分なりに調べてみる。 最低限、配布したレジュメ、小テストを見直すこと。
10回	学習内容 予習 復習	【長崎の歴史と現代】「鎖国」下で、4つの口の1つだった長崎の歴史を概説する。 長崎の近代では、原爆投下の影響も取り上げる。これにつき、自分なりに調べてみる。 最低限、配布したレジュメ、小テストを見直すこと。
11回	学習内容 予習 復習	【広島市の歴史と現代】近代広島の発展を、「軍都・広島」の視点を中心に、概説する。 近代以前の広島では、厳島神社を取り上げる。自分なりに、調べてみる。 最低限、配布したレジュメ、小テストを見直すこと。
12回	学習内容 予習 復習	【北海道の歴史と現代】「蝦夷地」と呼ばれた時代から、現在までの歴史を概説する。 アイヌ民族と日本人の交流などについて、自分なりに調べてみる。 最低限、配布したレジュメ、小テストを見直すこと。
13回	学習内容 予習 復習	【沖縄の歴史と現代】琉球王国の時代から、沖縄戦・米軍占領までの歴史を概説する。 琉球王国の時代や沖縄戦について、自分なりに調べてみる。 最低限、配布したレジュメ、小テストを見直すこと。
14回	学習内容 予習 復習	【福島の歴史と現代】戊辰戦争、安積礫水、福島第一原発などについて、概説する。 常磐炭鉱や福島第一原発事故などについて、自分なりに調べてみる。 最低限、配布したレジュメ、小テストを見直すこと。
15回	学習内容 予習 復習	後半のまとめ。中間テスト形式で、第9回～第14回までの講義をおさらいする。 第9回～第14回までの講義を改めて復習してくる。 最低限、配布したレジュメ、小テストを見直すこと。

科目名	現代日本事情Ⅰ（日本事情Ⅰ）			科目コード	21070	
英文名	Contemporary Japan I (Japan & Its Society I)			科目区分	【専門科目】 日本理解専攻(選択)	
担当教員	部田 和美		教員コード	153	単位数	2単位
開講期間	前期	曜日・時限	水曜日・3時限		授業形態	講義
学位授与方針との対応	◎	1.大学生としての幅広い教養を身につける		2.学修を通じて得た専門的な知識を表現する		
	○	3.論理的・批判的なものの見方を養う		4.自己の潜在能力を発見し、問題を解決する		
	○	5.学習の過程で発見した課題を探求する		6.卒業後の社会生活を豊かに過ごす基礎を養う		
授業概要	前半は「時事問題」「生活」「文化」といったテーマの話題を毎回1つ定め、関連記事や資料等を読み、内容を把握し自身の意見をまとめて形にする。後半は、学生自らが前半で扱ったテーマから特に関心のあるものを1つ選び、より深く掘り下げ、個人発表を行う。					
授業の狙い・到達目標	時事問題や生活文化に関する知識と理解を深め、自ら問題提起をして解決策を考える力をつける。また、自身の意見を簡潔にまとめ相手に伝える能力を身につけることができる。					
授業内容のレベル・関連科目	関連科目：現代日本事情Ⅱ					
授業外学習(予習・復習)	予習)次週の資料を前もって読み、理解しておく。 復習)扱ったテーマについて自身で調べまとめる(宿題)。			授業外学習に必要な時間	各回4時間、 合計60時間	
使用教科書	教員、担当学生が用意した資料を使用					
参考書・その他教材	都度講義内で指定する。					
課題に対するフィードバック	毎回の作文課題の修正点を確認し、重要な点は授業で共有する。					
成績評価方法	個人発表40%、毎週の作文課題40%、平常点20%					
成績評価基準	学習の到達目標にどのくらい到達したかを本学の学業成績判定に関する規程の基準に基づき評価する。					
履修上の注意事項や学習上の助言	普段から様々な時事ニュースや身近な出来事に関心を持ち、それらについて考える習慣をつけてほしい。					
科目に関連した教員の実務経歴	特になし					
担当教員への連絡方法	torita@aikoku-u.org					

授業スケジュール

現代日本事情Ⅰ（日本事情Ⅰ）

1回	学習内容 予習 復習	イントロダクション 時事問題(1) 青少年に関する問題① 次回テーマの配布資料を読み、課題を作成する テーマに対する自身の考えをまとめる(作文課題)
2回	学習内容 予習 復習	時事問題(2) 青少年に関する問題② 次回テーマの配布資料を読み、課題を作成する テーマに対する自身の考えをまとめる(作文課題)
3回	学習内容 予習 復習	時事問題(3) 社会生活に関する問題① 次回テーマの配布資料を読み、課題を作成する テーマに対する自身の考えをまとめる(作文課題)
4回	学習内容 予習 復習	時事問題(4) 社会生活に関する問題② 次回テーマの配布資料を読み、課題を作成する テーマに対する自身の考えをまとめる(作文課題)
5回	学習内容 予習 復習	時事問題(5) 社会生活に関する問題③ 次回テーマの配布資料を読み、課題を作成する テーマに対する自身の考えをまとめる(作文課題)
6回	学習内容 予習 復習	日本の文化(1)伝統文化の今昔① 次回テーマの配布資料を読み、課題を作成する テーマに対する自身の考えをまとめる(作文課題)
7回	学習内容 予習 復習	日本の文化(2)伝統文化の今昔② 次回テーマの配布資料を読み、課題を作成する テーマに対する自身の考えをまとめる(作文課題)
8回	学習内容 予習 復習	日本の文化(3)伝統文化の今昔③ 次回テーマの配布資料を読み、課題を作成する テーマに対する自身の考えをまとめる(作文課題)
9回	学習内容 予習 復習	日本の文化(4)日本のサブカルチャー① 次回テーマの配布資料を読み、課題を作成する テーマに対する自身の考えをまとめる(作文課題)
10回	学習内容 予習 復習	日本の文化(5)日本のサブカルチャー② 次回テーマの配布資料を読み、課題を作成する テーマに対する自身の考えをまとめる(作文課題)
11回	学習内容 予習 復習	これまで扱ったテーマについてのまとめ 授業で使用した資料を見直しておく 教員の提示した課題を行う
12回	学習内容 予習 復習	学生の個人発表(1) 発表に向けての準備 教員の提示した課題を行う
13回	学習内容 予習 復習	学生の個人発表(2) 発表に向けての準備 教員の提示した課題を行う
14回	学習内容 予習 復習	学生の個人発表(3) 発表に向けての準備 教員の提示した課題を行う
15回	学習内容 予習 復習	発表を終えての反省とまとめと授業全体のまとめ 授業で扱ったプリント等を再読し、自身で振り返りを行う 特になし

科目名	現代日本事情Ⅱ（日本事情Ⅱ）			科目コード	21080	
英文名	Contemporary Japan II (Japan & Its Society II)			科目区分	【専門科目】 日本理解専攻(選択)	
担当教員	部田 和美		教員コード	153	単位数	2単位
開講期間	後期	曜日・時限	水曜日・3時限		授業形態	講義
学位授与方針との対応	◎	1.大学生としての幅広い教養を身につける		2.学修を通じて得た専門的な知識を表現する		
	○	3.論理的・批判的なものの見方を養う		4.自己の潜在能力を発見し、問題を解決する		
	○	5.学習の過程で発見した課題を探求する		6.卒業後の社会生活を豊かに過ごす基礎を養う		
授業概要	前半は「時事問題」「生活」「文化」といったテーマの話題を毎回1つ定め、関連記事や資料等を読み、内容を把握し自身の意見をまとめて形にする。後半は、学生自らが前半で扱ったテーマから特に関心のあるものを1つ選び、より深く掘り下げ、個人発表を行う。					
授業の狙い・到達目標	時事問題や生活文化に関する知識と理解を深め、自ら問題提起をして解決策を考える力をつける。また、自身の意見を簡潔にまとめ相手に伝える能力を身につけることができる。					
授業内容のレベル・関連科目	関連科目:現代日本事情Ⅰ					
授業外学習(予習・復習)	予習)次週の資料を前もって読み、理解しておく。 復習)扱ったテーマについて自身で調べまとめる(宿題)。			授業外学習に必要な時間	各回4時間、 合計60時間	
使用教科書	教員、担当学生が用意した資料を使用					
参考書・その他教材	都度講義内で指定する。					
課題に対するフィードバック	毎回の作文課題の修正点を確認し、重要な点は授業で共有する。					
成績評価方法	個人発表40%、毎週の作文課題40%、平常点20%					
成績評価基準	学習の到達目標にどのくらい到達したかを本学の学業成績判定に関する規程の基準に基づき評価する。					
履修上の注意事項や学習上の助言	普段から様々な時事ニュースや身近な出来事に関心を持ち、それらについて考える習慣をつけてほしい。					
科目に関連した教員の業務経験	特になし					
担当教員への連絡方法	torita@aikoku-u.org					

授業スケジュール

現代日本事情Ⅱ（日本事情Ⅱ）

1回	学習内容 予習 復習	イントロダクション 時事問題(1) 社会生活の問題① 次回テーマの配布資料を読み、課題を作成する 教員の提示した課題を行う
2回	学習内容 予習 復習	時事問題(2) 社会生活の問題② 次回テーマの配布資料を読み、課題を作成する テーマに対する自身の考えをまとめる(作文課題)
3回	学習内容 予習 復習	時事問題(3) 社会生活の問題③ 次回テーマの配布資料を読み、課題を作成する テーマに対する自身の考えをまとめる(作文課題)
4回	学習内容 予習 復習	時事問題(4) 国際社会と日本① 次回テーマの配布資料を読み、課題を作成する テーマに対する自身の考えをまとめる(作文課題)
5回	学習内容 予習 復習	時事問題(5) 国際社会と日本② 次回テーマの配布資料を読み、課題を作成する テーマに対する自身の考えをまとめる(作文課題)
6回	学習内容 予習 復習	日本の文化(1)日本の行事と習慣① 次回テーマの配布資料を読み、課題を作成する テーマに対する自身の考えをまとめる(作文課題)
7回	学習内容 予習 復習	日本の文化(2)日本の行事と習慣② 次回テーマの配布資料を読み、課題を作成する テーマに対する自身の考えをまとめる(作文課題)
8回	学習内容 予習 復習	日本の文化(3)国際社会と日本人① 次回テーマの配布資料を読み、課題を作成する テーマに対する自身の考えをまとめる(作文課題)
9回	学習内容 予習 復習	日本の文化(4)国際社会と日本人② 次回テーマの配布資料を読み、課題を作成する テーマに対する自身の考えをまとめる(作文課題)
10回	学習内容 予習 復習	日本の文化(5)国際社会と日本人③ 次回テーマの配布資料を読み、課題を作成する テーマに対する自身の考えをまとめる(作文課題)
11回	学習内容 予習 復習	これまで扱ったテーマについてのまとめ 授業で使用した資料を見直しておく 教員の提示した課題を行う
12回	学習内容 予習 復習	学生の個人発表(1) 発表に向けての準備 教員の提示した課題を行う
13回	学習内容 予習 復習	学生の個人発表(2) 発表に向けての準備 教員の提示した課題を行う
14回	学習内容 予習 復習	学生の個人発表(3) 発表に向けての準備 教員の提示した課題を行う
15回	学習内容 予習 復習	発表を終えての反省とまとめと授業全体のまとめ 授業で扱ったプリント等を再読し、自身で振り返りを行う 特になし

科目名	西洋文化論			科目コード	21090		
英文名	Western Culture			科目区分	【専門科目】 日本理解専攻(選択)		
担当教員	栗林 慶		教員コード	158	単位数	2単位	
開講期間	前期	曜日・時限	水曜日・4時限		授業形態	講義	
学位授与方針との対応	◎	1.大学生としての幅広い教養を身につける		○	2.学修を通じて得た専門的な知識を表現する		
	○	3.論理的・批判的なものの見方を養う			4.自己の潜在能力を発見し、問題を解決する		
		5.学習の過程で発見した課題を探索する		○	6.卒業後の社会生活を豊かに過ごす基礎を養う		
授業概要	西洋文化圏に属する地域について、その文化を学ぶ。この授業では、各地域の諸相を正しくとらえることと、関連地域との比較をすることの2点を足がかりとして、西洋文化について学んでいく。						
授業の狙い・到達目標	①西洋文化圏の各地域について、自然環境や社会、経済などの概要を説明することができる。 ②地域の特徴を理解し、それらを地域文化の背景として統合的に説明することができる。						
授業内容のレベル・関連科目	高等学校の社会科学の知識が前提となる。						
授業外学習(予習・復習)	予習は授業計画や教員からの指示をよく確認して行うこと。また、復習として、毎回授業内容について振り返り、返却された提出課題についてはよく確認してから次回の授業に臨むこと。			授業外学習に必要な時間	各回4時間、合計60時間		
使用教科書	特になし						
参考書・その他教材	講義で使用したものについては、適宜紹介する。						
課題に対するフィードバック	提出課題については、各自の答案を評価し、次週以降に返却する。また、適宜、補足説明やコメントを付記する。						
成績評価方法	平常点(30%) 課題(40%) 定期試験(30%) 平常点は、①授業への参加意欲 ②発言等による授業への貢献 ③周囲との共同・協調の各項目を評価する。						
成績評価基準	学習の到達目標にどのくらい到達したかを本学の学業成績判定に関する規程の基準に基づき評価する。						
履修上の注意事項や学習上の助言	予習・復習時には外務省HPの「国・地域」のページが参考になる。 (https://www.mofa.go.jp/mofaj/area/index.html)						
科目に関連した教員の業務経験	特になし						
担当教員への連絡方法	質問、連絡等はメール(kei@aikoku-u.org)にて受け付ける。 教員は必ず返信をするので、もし返信がない場合は各自、連絡方法を再確認すること。						

授業スケジュール

西洋文化論

1回	学習内容 予習 復習	イントロダクション 地域の特徴と文化、とくに西洋文化について シラバスを読み、授業内容について確認しておくこと。 授業内容と進め方について、確認しておくこと。
2回	学習内容 予習 復習	アングロアメリカ① アングロアメリカに関する基礎情報を事前に整理しておくこと。 地域の特徴について確認し、不足していた知識があればよく復習しておくこと。
3回	学習内容 予習 復習	アングロアメリカ② アングロアメリカに関する基礎情報を事前に整理しておくこと。 地域の特徴について確認し、不足していた知識があればよく復習しておくこと。
4回	学習内容 予習 復習	関連地域 ラテンアメリカ① ラテンアメリカに関する基礎情報を事前に整理しておくこと。 地域の特徴について確認し、不足していた知識があればよく復習しておくこと。
5回	学習内容 予習 復習	関連地域 ラテンアメリカ② ラテンアメリカに関する基礎情報を事前に整理しておくこと。 地域の特徴について確認し、不足していた知識があればよく復習しておくこと。
6回	学習内容 予習 復習	オセアニア オセアニアに関する基礎情報を事前に整理しておくこと。 地域の特徴について確認し、不足していた知識があればよく復習しておくこと。
7回	学習内容 予習 復習	中間課題① 第2回から第6回の学習内容を重点的に振り返っておくこと。 課題の返却後に、理解していなかった内容や未習得の内容についてよく復習しておくこと。
8回	学習内容 予習 復習	ヨーロッパ概論 ヨーロッパに関する基礎情報を事前に整理しておくこと。 地域の特徴について確認し、不足していた知識があればよく復習しておくこと。
9回	学習内容 予習 復習	ヨーロッパ各国① イギリス、フランス、ドイツ イギリス、フランス、ドイツの各国について、基礎情報を事前に整理しておくこと。 地域の特徴について確認し、不足していた知識があればよく復習しておくこと。
10回	学習内容 予習 復習	ヨーロッパ各国② 諸国 東ヨーロッパ、南ヨーロッパ諸国の基礎情報を事前に整理しておくこと。 地域の特徴について確認し、不足していた知識があればよく復習しておくこと。
11回	学習内容 予習 復習	関連地域 ～ロシア～ ロシアに関する基礎情報を事前に整理しておくこと。 地域の特徴について確認し、不足していた知識があればよく復習しておくこと。
12回	学習内容 予習 復習	中間課題② 第8回から第11回の学習内容を重点的に振り返っておくこと。 課題の返却後に、理解していなかった内容や未習得の内容についてよく復習しておくこと。
13回	学習内容 予習 復習	関連地域 西洋と日本① 西洋と日本と文化的差異が生じる背景について考えておくこと。 地域の特徴について確認し、不足していた知識があればよく復習しておくこと。
14回	学習内容 予習 復習	関連地域 西洋と日本② 西洋と日本と文化的差異が生じる背景について考えておくこと。 地域の特徴について確認し、不足していた知識があればよく復習しておくこと。
15回	学習内容 予習 復習	講義のふりかえり 各回の資料を読み返し、授業内容を振り返っておくこと。 予習の内容と講義の内容を確認し、理解を深めておくこと。

科目名	日本と西洋文化（西洋の言語文化）			科目コード	21100		
英文名	Japan and Western Culture (Western Language Culture)			科目区分	【専門科目】 日本理解専攻(必修)		
担当教員	栗林 慶		教員コード	158	単位数	2単位	
開講期間	後期	曜日・時限	水曜日・4時限		授業形態	講義	
学位授与方針との対応	◎	1.大学生としての幅広い教養を身につける		○	2.学修を通じて得た専門的な知識を表現する		
	○	3.論理的・批判的なものの見方を養う			4.自己の潜在能力を発見し、問題を解決する		
		5.学習の過程で発見した課題を探求する		○	6.卒業後の社会生活を豊かに過ごす基礎を養う		
授業概要	言語、宗教、政治経済といった様々な事象を地域・環境の側面からとらえることにより、日本や西洋の文化について学ぶ。						
授業の狙い・到達目標	①日本や世界の文化を構成する様々な事例から、各地域の特徴を説明することができる。 ②日本や世界の自然環境、社会、経済などを手がかりとして、各地域の文化現象を分析し、説明することができる。						
授業内容のレベル・関連科目	高等学校の社会科学の知識が前提となる。						
授業外学習(予習・復習)	予習は授業計画や教員からの指示をよく確認して行うこと。また、復習として、毎回授業内容について振り返り、返却された提出課題についてはよく確認してから次回の授業に臨むこと。			授業外学習に必要な時間	各回4時間、合計60時間		
使用教科書	特になし						
参考書・その他教材	中川 正・森 正人・神田孝治(2006)『文化地理学ガイダンス(初版)』ナカニシヤ出版 その他、講義で使用したものについては、適宜紹介する。						
課題に対するフィードバック	提出課題については、各自の答案を評価し、次週以降に返却する。また、適宜、補足説明やコメントを付記する。						
成績評価方法	平常点(30%) 授業内課題(40%) 定期試験(30%) 平常点は、①授業への参加意欲 ②発言等による授業への貢献 ③周囲との共同・協調の各項目を評価する。						
成績評価基準	学習の到達目標にどのくらい到達したかを本学の学業成績判定に関する規程の基準に基づき評価する。						
履修上の注意事項や学習上の助言	より発展的な内容を学びたい場合は、参考図書等を案内する。						
科目に関連した教員の実務経験	特になし						
担当教員への連絡方法	質問、連絡等はメール(kei@aikoku-u.org)にて受け付ける。 教員は必ず返信をするので、もし返信がない場合は各自、連絡方法を再確認すること。						

授業スケジュール

日本と西洋文化（西洋の言語文化）

1回	学習内容 予習 復習	イントロダクション ～地域と文化、地域からの接近～ シラバスを読み、授業内容について確認しておくこと。 授業内容と進め方について、確認しておくこと。
2回	学習内容 予習 復習	文化に対するアプローチ 文化と地域の関わり合いについて、どのような接点があるのか考えておくこと。 授業内容を振り返り、学んだことや新たに得られた知見を確認すること。
3回	学習内容 予習 復習	地図からみる文化 地図による表現がどのように文化と関連するのか、考えておくこと。 授業内容を振り返り、学んだことや新たに得られた知見を確認すること。
4回	学習内容 予習 復習	環境からみる文化 環境という用語の使用法について調べておくこと。 授業内容を振り返り、学んだことや新たに得られた知見を確認すること。
5回	学習内容 予習 復習	景観からみる文化 景観という用語の使用法について調べておくこと。 第2回から第5回の内容をまとめておき、不明点を残さないようにすること。
6回	学習内容 予習 復習	ことばと文化 講義レジュメを読み、授業で学ぶことを事前に整理しておくこと。 授業内容を振り返り、学んだことや新たに得られた知見を確認すること。
7回	学習内容 予習 復習	政治と文化 第3回から第5回で学んだ内容をもとに、政治と文化の関係を考えておくこと。 第6回以降の内容と比較し、文化を考えるアプローチ方法についてまとめておくこと。
8回	学習内容 予習 復習	都市と文化 第3回から第5回で学んだ内容をもとに、都市と文化の関係を考えておくこと。 第6回以降の内容と比較し、文化を考えるアプローチ方法についてまとめておくこと。
9回	学習内容 予習 復習	宗教と文化 第3回から第5回で学んだ内容をもとに、宗教と文化の関係を考えておくこと。 第6回以降の内容と比較し、文化を考えるアプローチ方法についてまとめておくこと。
10回	学習内容 予習 復習	民族と文化 第3回から第5回で学んだ内容をもとに、民族と文化の関係を考えておくこと。 第6回以降の内容と比較し、文化を考えるアプローチ方法についてまとめておくこと。
11回	学習内容 予習 復習	生業と文化 第3回から第5回で学んだ内容をもとに、生業と文化の関係を考えておくこと。 第6回以降の内容と比較し、文化を考えるアプローチ方法についてまとめておくこと。
12回	学習内容 予習 復習	観光と文化 第3回から第5回で学んだ内容をもとに、観光と文化の関係を考えておくこと。 第6回以降の内容と比較し、文化を考えるアプローチ方法についてまとめておくこと。
13回	学習内容 予習 復習	ジェンダーと文化 第3回から第5回で学んだ内容をもとに、ジェンダーと文化の関係を考えておくこと。 第6回以降の内容と比較し、文化を考えるアプローチ方法についてまとめておくこと。
14回	学習内容 予習 復習	文化を考えると 各回の復習で行った「文化を考えるアプローチ」についての小ノートを作成しておくこと。 授業内容を振り返り、学んだことや新たに得られた知見を確認すること。
15回	学習内容 予習 復習	講義のふりかえり 各回の資料を読み返し、授業内容を振り返っておくこと。 予習の内容と講義の内容を確認し、理解を深めておくこと。

科目名	東洋文化論（東洋文化論Ⅰ）			科目コード	21110		
英文名	Oriental Culture (Oriental Culture Ⅰ)			科目区分	【専門科目】 日本理解専攻(選択)		
担当教員	山崎 寿美子		教員コード	147	単位数	2単位	
開講期間	前期	曜日・時限	水曜日・1時限		授業形態	講義	
学位授与方針との対応	○	1.大学生としての幅広い教養を身につける				2.学修を通じて得た専門的な知識を表現する	
	◎	3.論理的・批判的なものの見方を養う				4.自己の潜在能力を発見し、問題を解決する	
		5.学習の過程で発見した課題を探求する		○			6.卒業後の社会生活を豊かに過ごす基礎を養う
授業概要	東洋が西洋からどのようにイメージされ、記述されてきたか、文化の表象という問題を考える。そのうえで、東洋的な精神や文化的様相について議論する。						
授業の狙い・到達目標	「オリエント(東洋)」というイメージがどのように作られてきたかについて、文献や資料を通して、植民地時代の状況をふまえて理解を深められるようになる。また、履修生の出身国・出身地域の文化がどのように表現されているかについて、客観的に考えることができるようになる。						
授業内容のレベル・関連科目	新聞の国際欄、文化欄などが読めると望ましい。また、英語の資料もとりあげるため、英語の読解力も必要とする。(関連科目)文化人類学						
授業外学習(予習・復習)	各回の授業の冒頭に小テストを行うので、授業で配布された資料や教員の講義を振り返り、理解を深めておくこと。また、簡単な課題を出す場合もあるので、教員の指示に従って提出すること。			授業外学習に必要な時間	各回4時間、合計60時間		
使用教科書	指定しない。						
参考書・その他教材	授業ごとに資料を配布するとともに、テーマに合わせて随時参考文献を指示する。						
課題に対するフィードバック	前週の授業の復習を兼ねて小テストを添削しコメントをする。						
成績評価方法	小テスト(30%)、期末試験(70%)で評価する。						
成績評価基準	学習の到達目標にどのくらい到達したかを本学の学業成績判定に関する規程の基準に基づき評価する。						
履修上の注意事項や学習上の助言	普段から自文化や異文化に関心を抱き、東洋と西洋という分け方について自分なりの意見をもっておくこと。						
科目に関連した教員の実務経験	特になし						
担当教員への連絡方法	質問はメール(yamazaki@aikoku-u.org)で受け付ける。						

授業スケジュール

東洋文化論（東洋文化論Ⅰ）

1回	学習内容 予習 復習	イントロダクション—授業の目的、内容、進め方について説明する。 シラバスを読み、授業の内容についておおまかに理解しておくこと。 授業の趣旨を理解し、今後の取り組みについてイメージをもっておくこと。
2回	学習内容 予習 復習	西洋と東洋という分け方について批判的に考える。 西洋、東洋のイメージについて考えてくること。 授業前のイメージと講義の内容を比較し、感想をまとめて提出する。
3回	学習内容 予習 復習	芸術作品を通して西洋からみた東洋について考える。 事前に配布した資料に目を通し、芸術作品の印象をまとめてくること。 授業前のイメージと講義の内容を比較し、感想をまとめて提出する。
4回	学習内容 予習 復習	『文明の生態史観』(梅棹忠夫著)を読む①西洋と東洋という分け方の問題点について考える。 事前に配布した資料に目を通して、大まかな内容を理解しておくこと。 授業を受けて資料を読み返し、内容の理解を深める。
5回	学習内容 予習 復習	『文明の生態史観』(梅棹忠夫著)を読む②アジアの中の日本という捉え方について考える。 事前に配布した資料に目を通して、大まかな内容を理解しておくこと。 授業を受けて資料を読み返し、内容の理解を深める。
6回	学習内容 予習 復習	これまでの授業のまとめを行なう。 第2回から第5回までの資料を読み返しておくこと。 授業で指示された課題の内容にとり組み提出すること。
7回	学習内容 予習 復習	文化を書くことの問題点について人類学の視点から考える。 事前に配布した資料に目を通して、大まかな内容を理解しておくこと。 授業を受けて資料を読み返し、内容の理解を深める。
8回	学習内容 予習 復習	表象とは何かについて概説する。 事前に配布した資料に目を通して、大まかな内容を理解しておくこと。 授業を受けて資料を読み返し、内容の理解を深める。
9回	学習内容 予習 復習	アジアにおける植民地統治について概観する。 事前に配布した資料に目を通して、大まかな内容を理解しておくこと。 授業を受けて資料を読み返し、内容の理解を深める。
10回	学習内容 予習 復習	探検記を読み、植民地時代のインドシナについて学ぶ。 事前に配布した資料に目を通して、大まかな内容を理解しておくこと。 授業を受けて資料を読み返し、内容の理解を深める。
11回	学習内容 予習 復習	東南アジアの植民地統治に関する論文を読む。 事前に配布した資料に目を通して、大まかな内容を理解しておくこと。 授業を受けて資料を読み返し、内容の理解を深める。
12回	学習内容 予習 復習	植民地博覧会を例に、表象の問題点を考える。 事前に配布した資料に目を通して、大まかな内容を理解しておくこと。 授業を受けて資料を読み返し、内容の理解を深める。
13回	学習内容 予習 復習	近代国家の形成過程で国民がどのように創られてきたかについて学ぶ。 事前に配布した資料に目を通して、大まかな内容を理解しておくこと。 授業を受けて資料を読み返し、内容の理解を深める。
14回	学習内容 予習 復習	観光における民族や文化の表象について考える。 事前に配布した資料に目を通して、大まかな内容を理解しておくこと。 授業を受けて資料を読み返し、内容の理解を深める。
15回	学習内容 予習 復習	これまでの授業のまとめを行なう。 配布資料を読み返し、全ての回の授業内容を振り返っておくこと。 全体を振り返り、授業の論点をまとめておく。

科目名	日本とアジア*			科目コード	21120		
英文名	Japan and Asia			科目区分	【専門科目】 日本理解専攻(必修)		
担当教員	梶原 健嗣		教員コード	145	単位数	2単位	
開講期間	前期	曜日・時限	木曜日・1時限	授業形態	講義		
学位授与方針との対応	<input type="radio"/>	1.大学生としての幅広い教養を身につける	<input checked="" type="radio"/>	2.学修を通じて得た専門的な知識を表現する			
	<input type="radio"/>	3.論理的・批判的なものの見方を養う	<input type="radio"/>	4.自己の潜在能力を発見し、問題を解決する			
	<input type="radio"/>	5.学習の過程で発見した課題を探求する	<input type="radio"/>	6.卒業後の社会生活を豊かに過ごす基礎を養う			
授業概要	日本の歴史と対外関係史として学ぶ。日本と国際社会が、対アジア、対欧米を含み、地誌学的視点も含めて幅広い学修になるのに対し、本講義では対アジアと特化、歴史を基本とした。						
授業の狙い・到達目標	現代社会に生きる我々の立ち位置を的確に把握するうえで、歴史の学修は重要である。本講義では、日本にとって重要な対外関係であるアジア(対中、対韓)、欧米(対米、対欧)などを幅広く学び、日本の対外関係の歴史の基礎が理解できるようになる。						
授業内容のレベル・関連科目	日本の歴史は、いかにアジアをはじめとする外交関係に大きな影響を受けてきたか。それを実感できる講義を展開したい。おそらく、政治史である日本史学概論が一番関連が深い。						
授業外学習(予習・復習)	高校までの教科書でいうと、「日本史B」と同じ範囲である。その復習が講義をスムーズに理解するうえで有用である。また、講義レジュメの参照資料URLをたどってみると、発展的な復習になる。			授業外学習に必要な時間	各回4時間、合計60時間		
使用教科書	教員が自作のレジュメを用意し、教科書は使用しない。						
参考書・その他教材	特になし。ただ、講義レジュメに引用した資料などは、できれば帰宅後の復習のなかで参照してほしい。						
課題に対するフィードバック	特になし。講義中に行う小テストは、その場で解説する。						
成績評価方法	平常点15%、筆記試験85%(中間テスト(20%)含む)						
成績評価基準	授業の狙いこあげた学習到達目標にどのくらい到達したかを、本学の「学業成績判定に関する規程の基準」に基づき評価する。						
履修上の注意事項や学習上の助言	復習をきちんとすること。特に、小テストの復習は入念に。講義とはいえ、「なぜ?」という問いを大事にしながら学習すること。						
科目に関連した教員の実務経験	特になし						
担当教員への連絡方法	メールでの質問(kajiwara@aikoku-u.org)、またはオフィスアワー(新年度に掲示)。もちろん授業終了後に、直接聞くことも可。						

授業スケジュール

日本とアジア

1回	学習内容 予習 復習	イントロダクション、講義の概要やテストの方法などを説明する。 シラバスをよく読んでおくこと。 配布したレジュメを見直しするとともに、左ページ「授業外学習」で例示した復習をすること。
2回	学習内容 予習 復習	志賀島・金印から、魏志倭人伝まで。対中関係を中心に5世紀まで。 魏志倭人伝と卑弥呼・邪馬台国につき、現在の知見を自分なりに調べてみる。 最低限、配布したレジュメ、小テストを見直すこと。
3回	学習内容 予習 復習	仏教の伝来と遣隋使・遣唐使の意義。5世紀までの朝鮮半島、中国との関係史を概説する。 遣隋使や遣唐使の派遣によって、日本が得ようとしたもの、そして実際に得たものを調べてみる。 最低限、配布したレジュメ、小テストを見直すこと。
4回	学習内容 予習 復習	白村江の戦いとその影響を中心に、7～8世紀の日本社会の「動揺」について概説する。 7世紀後半、古代律令国家の建設期にいかに対外関係が大きな影響を与えているか、調べてみる。 最低限、配布したレジュメ、小テストを見直すこと。
5回	学習内容 予習 復習	遣唐使廃止と国風文化、11世紀の日宋貿易、そして元寇に至る流れを概説する。 国風文化の時代の代表的世界遺産・平等院鳳凰堂について、調べてみる。 最低限、配布したレジュメ、小テストを見直すこと。
6回	学習内容 予習 復習	14世紀の東アジア国家再編と倭寇・勘合貿易、16世紀の朱印船貿易に至る流れを概説する。 前期倭寇と後期倭寇の違いについて、自分なりに調べてみる。 最低限、配布したレジュメ、小テストを見直すこと。
7回	学習内容 予習 復習	江戸時代と「4つの口」。鎖国下における外交関係として、アジアとの交流を学ぶ。 4つの口とは何か、自分で調べてみる。 最低限、配布したレジュメ、小テストを見直すこと。
8回	学習内容 予習 復習	前半のまとめ。中間テスト形式で、第2回～第7回までの講義をおさらいする。 第2回～第7回までの講義を改めて復習していただくこと。 最低限、配布したレジュメ、小テストを見直すこと。
9回	学習内容 予習 復習	日清戦争前夜。19世紀後半の日中・日韓関係を学ぶ。 中世の冊封体制が、近代になっていかに変容したか、自分なりに調べてみる。 最低限、配布したレジュメ、小テストを見直すこと。
10回	学習内容 予習 復習	韓国併合(日韓併合)に至る、19世紀から20世紀前半の対韓関係を学ぶ。 日清戦争と日露戦争の繋がりが、日露戦争と日韓兵隊の繋がりについて、自分なりに調べてみる。 最低限、配布したレジュメ、小テストを見直すこと。
11回	学習内容 予習 復習	満洲事変・日中戦争、20世紀中盤の日中戦争を戦史として学ぶ。 満洲事変から日中戦争、日中戦争から北部・南部仏印侵攻に至る歴史を、自分なりに調べてみる。 最低限、配布したレジュメ、小テストを見直すこと。
12回	学習内容 予習 復習	太平洋戦争の背景とその流れについて概説する。 日中戦争から北部・南部仏印侵攻、真珠湾攻撃に至る歴史を、自分なりに調べてみる。 最低限、配布したレジュメ、小テストを見直すこと。
13回	学習内容 予習 復習	戦後日本とアジア外交。戦後のアジア外交を、政治・経済双方の視点から学ぶ。 アジア太平洋戦争の「戦後処理」について、自分なりに調べてみる。 最低限、配布したレジュメ、小テストを見直すこと。
14回	学習内容 予習 復習	グローバル化と日本・アジア、今日のアジア諸国との交流を考える。 アジアのなかの日本/アジアと日本という視点から、現代社会を考えてみる。 最低限、配布したレジュメ、小テストを見直すこと。
15回	学習内容 予習 復習	後半のまとめ。中間テスト形式で、第9回～第14回までの講義をおさらいする。 第9回～第14回までの講義を改めて復習していただくこと。 最低限、配布したレジュメ、小テストを見直すこと。

科目名	日本と国際社会*			科目コード	21130		
英文名	Japan and International Society			科目区分	【専門科目】 日本理解専攻(必修)		
担当教員	梶原 健嗣		教員コード	145	単位数	2単位	
開講期間	後期	曜日・時限	木曜日・1時限		授業形態	講義	
学位授与方針との対応	<input type="radio"/>	1.大学生としての幅広い教養を身につける	<input checked="" type="radio"/>	2.学修を通じて得た専門的な知識を表現する			
	<input type="radio"/>	3.論理的・批判的なものの見方を養う	<input type="radio"/>	4.自己の潜在能力を発見し、問題を解決する			
	<input type="radio"/>	5.学習の過程で発見した課題を探求する	<input type="radio"/>	6.卒業後の社会生活を豊かに過ごす基礎を養う			
授業概要	日本と世界の関わりを、地域別に学ぶ講義である。取り上げる国は、いずれも日本と関わりの深い主要国であり、その地誌、歴史(対日関係)を学ぶ講義となる。						
授業の狙い・到達目標	国際化のなかで、日本の立ち位置・ありようを学ぶことができる講義にしたい。グローバル化が深化する現代社会を生きるにあたり、必須の知識を身に付けることが目標となる。歴史を扱う日本とアジアに対し、「地誌」的に世界を理解できるようにする。						
授業内容のレベル・関連科目	世界の主要国につき、地誌学的な視点を中心に学ぶが、時として歴史的な視点も補足する。20世紀の国際政治・経済が学修できる国際関係論やテーマ別に戦後の国際関係を学べる国際協力学が、関連性が高い。						
授業外学習(予習・復習)	国際ニュースは本講義にとつて、とても重要な関連学習である。いま、世界で何が起きているか、積極的に学んでほしい。同時に、その背景となる歴史を考える姿勢を持ってほしい。それが本講義の狙いでもあり、最も効果的な予習・復習となる。			授業外学習に必要な時間	各回4時間、合計60時間		
使用教科書	教員が自作のレジュメを用意し、教科書は使用しない。						
参考書・その他教材	特になし。 ただ、講義レジュメに引用した資料などは、できれば帰宅後の復習のなかで参照してほしい。						
課題に対するフィードバック	特になし。 講義中に行う小テストは、その場で解説する。						
成績評価方法	平常点15%、筆記試験85%(中間テスト(20%)含む)						
成績評価基準	授業の狙いにあげた学習到達目標にどのくらい到達したかを、本学の「学業成績判定に関する規程の基準」に基づき評価する。						
履修上の注意事項や学習上の助言	復習をきちんとすること。特に、小テストの復習は入念に。 講義とはいえ、「なぜ?」という問いを大事にしながら学習すること。						
科目に関連した教員の業務経験	特になし						
担当教員への連絡方法	メールでの質問(kajiwara@aikoku-u.org)、またはオフィスアワー(新年度に掲示)。もちろん授業終了後に、直接聞くことも可。						

授業スケジュール

日本と国際社会

1回	学習内容 予習 復習	イントロダクション、講義の概要やテストの方法などを説明する。 シラバスをよく読んでおくこと。 配布したレジュメを見返しすとともに、左ページ「授業外学習」で例示した復習をすること。
2回	学習内容 予習 復習	【中国】中国社会の現状を概説し、そのうえで戦後の日中関係を学ぶ。 日清戦争や北清事変について、自分なりに調べてみる。 最低限、配布したレジュメ、小テストを見直すこと。
3回	学習内容 予習 復習	【朝鮮半島】朝鮮半島の現状を概説し、そのうえで戦後の日韓・日朝関係を学ぶ。 独立後の朝鮮半島と日本の関係につき、自分なりに調べてみる。 最低限、配布したレジュメ、小テストを見直すこと。
4回	学習内容 予習 復習	【東南アジア①】 タイ、ベトナムなどインドシナ地域の現状と対日関係を概説する。 在留ベトナム人が、いつから増えたのか。自分なりに調べてみる。 最低限、配布したレジュメ、小テストを見直すこと。
5回	学習内容 予習 復習	【東南アジア②】 マレーシア、インドネシアの現状と対日関係を概説する。 プラザ合意やODAについて、自分なりに調べてみる。 最低限、配布したレジュメ、小テストを見直すこと。
6回	学習内容 予習 復習	【東南アジア③】 フィリピン、カンボジアの現状と対日関係を概説する。 プラザ合意やODAについて、自分なりに調べてみる。 最低限、配布したレジュメ、小テストを見直すこと。
7回	学習内容 予習 復習	【南アジア】 インド、アフガニスタンの現状と対日関係を概説する。 四街道市になぜアフガニスタン人が多いか、自分でも調べてみる。 最低限、配布したレジュメ、小テストを見直すこと。
8回	学習内容 予習 復習	【西アジア】 中東地域とのかかわりを、石油を中心に学ぶ。 第1次オイルショック(1973)について、その原因・意義(影響)について、自分なりに調べてみる。 最低限、配布したレジュメ、小テストを見直すこと。
9回	学習内容 予習 復習	前半のまとめ(日本とアジア)。中間テスト形式で、第2回～第8回までの講義をおさらいする。 第2回～第8回までの講義を改めて復習してくること。 最低限、配布したレジュメ、小テストを見直すこと。
10回	学習内容 予習 復習	【米国】 米国の現状と対日関係を概説する。 BMS運動の背景について、自分なりに調べてみる。 最低限、配布したレジュメ、小テストを見直すこと。
11回	学習内容 予習 復習	【中南米】 ブラジルを中心に、南米の現状と対日関係を概説する。 日系ブラジル人、ペルー人について、自分なりに、その原因や実態を調べてみる。 最低限、配布したレジュメ、小テストを見直すこと。
12回	学習内容 予習 復習	【ヨーロッパ】 イギリス、ドイツ、EUを中心に、欧州諸国の現状と対日関係を概説する。 EUの歴史、イギリスのEU脱退について、その背景・意義などを自分なりに調べてみる。 最低限、配布したレジュメ、小テストを見直すこと。
13回	学習内容 予習 復習	【ロシア】 ロシアの現状と対日関係を概説する。 北方領土問題について、日ソ共同宣言(1956)以来の歴史を調べてみる。 最低限、配布したレジュメ、小テストを見直すこと。
14回	学習内容 予習 復習	【アフリカ】 アフリカの現状と対日関係を概説する。 アパルトヘイト、南アフリカ共和国について、自分なりに調べてみる。 最低限、配布したレジュメ、小テストを見直すこと。
15回	学習内容 予習 復習	後半のまとめ(日本と欧米)。中間テスト形式で、第10回～第14回までの講義をおさらいする。 第10回～第14回までの講義を改めて復習してくること。 最低限、配布したレジュメ、小テストを見直すこと。

科目名	国際関係論			科目コード	21140		
英文名	International Studies			科目区分	【専門科目】 日本理解専攻(選択)		
担当教員	梶原 健嗣		教員コード	145	単位数	2単位	
開講期間	前期	曜日・時限	月曜日・2時限	授業形態	講義		
学位授与方針との対応	○	1.大学生としての幅広い教養を身につける		2.学修を通じて得た専門的な知識を表現する			
	○	3.論理的・批判的なものの見方を養う		4.自己の潜在能力を発見し、問題を解決する			
		5.学習の過程で発見した課題を探索する	◎	6.卒業後の社会生活を豊かに過ごす基礎を養う			
授業概要	20世紀、とりわけ戦後の国際関係を政治・経済両分野で的確に理解することを目的とする。その時、歴史の流れを正確に理解することを重点目標とする。						
授業の狙い・到達目標	国際政治では、第1次世界大戦時の国際連盟に遡って国連の成り立ちや役割等を講義する。経済面では、ブレトンウッズ体制の形成から変容の過程を米国、アジアを中心に講義する。国際政治・経済の側面から、国際関係論の基礎を理解できるようになる。						
授業内容のレベル・関連科目	これからのグローバル社会に生きるうえで、不可欠な知識を教授するもので、基礎レベルである。「国際協力学」が関連科目で、併せて受講すると理解に幅と深みが出る。						
授業外学習(予習・復習)	講義では、重要事項をビジュアルで紹介していく。そのURLをたどって当該ページを閲覧することは、発展的な復習として、理解を深めるのに効果的である。			授業外学習に必要な時間	各回4時間、合計60時間		
使用教科書	教員が自作のレジュメを用意し、教科書は使用しない。						
参考書・その他教材	特になし。 ただ、講義レジュメに引用した資料などは、できれば帰宅後の復習のなかで参照してほしい。						
課題に対するフィードバック	特になし。 講義中に行う小テストは、その場で解説する。						
成績評価方法	平常点15%、筆記試験85%(中間テスト(20%)含む)						
成績評価基準	授業の狙いあげた学習到達目標にどのくらい到達したかを、本学の「学業成績判定に関する規程の基準」に基づき評価する。						
履修上の注意事項や学習上の助言	復習をきちんとすること。特に、小テストの復習は入念に。 講義とはいえ、「なぜ?」という問いを大事にしながら学習すること。						
科目に関連した教員の実務経験	特になし						
担当教員への連絡方法	メールでの質問(kajiwara@aikoku-u.org)、またはオフィスアワー(新年度に掲示)。もちろん授業終了後に、直接聞くことも可。						

授業スケジュール

国際関係論

1回	学習内容 予習 復習	イントロダクション、講義の概要やテストの方法などを説明する。 シラバスをよく読んでおくこと。 配布したレジュメを見返すとともに、左ページ「授業外学習」で例示した復習をすること。
2回	学習内容 予習 復習	国際政治①、第1次世界大戦から、国際連盟が誕生する(1920)までの歴史を概説する。 第1次世界大戦について、自分なりに調べてみる。 最低限、配布したレジュメ、小テストを見直すこと。
3回	学習内容 予習 復習	国際政治②、第2次世界大戦の原因と経緯。ヨーロッパ、アジアを中心に概説する。 第2回講義を復習したうえで、第2次世界大戦について、自分なりに調べてみる。 最低限、配布したレジュメ、小テストを見直すこと。
4回	学習内容 予習 復習	国際政治③、第3回講義を踏まえて、国連の仕組みや主要機関を概説する。 第2回、3回講義を復習し、2度の世界大戦の原因を把握しておくこと。 最低限、配布したレジュメ、小テストを見直すこと。
5回	学習内容 予習 復習	国際政治④、ロシア革命とソ連の成立、冷戦の始まりと展開の基本を概説する。 社会主義国について、その特徴と問題点を自分なりに調べてみる。 最低限、配布したレジュメ、小テストを見直すこと。
6回	学習内容 予習 復習	国際政治⑤、冷戦下で4つの国が分断国家となった。その歴史的展開を概説する。 4つの分断国家(ドイツ、ベトナム、朝鮮半島、中国)について、自分なりに調べてみる。 最低限、配布したレジュメ、小テストを見直すこと。
7回	学習内容 予習 復習	国際政治⑥、冷戦崩壊後の国際情勢を、なおも続く国際紛争・テロを中心に概説する。 湾岸戦争、9.11テロ、イラク戦争などを自分なりに調べてみる。 最低限、配布したレジュメ、小テストを見直すこと。
8回	学習内容 予習 復習	国際政治⑦、前半のまとめ。中間テスト形式で、第2回～第7回までの講義をおさらいする。 第2回～第7回までの講義を改めて復習しておくこと。 最低限、配布したレジュメ、小テストを見直すこと。
9回	学習内容 予習 復習	国際経済①、第2次世界大戦の経済的原因から、ブレトンウッズ体制の意義を理解する。 世界恐慌(1929)について、自分なりに調べてみる。 最低限、配布したレジュメ、小テストを見直すこと。
10回	学習内容 予習 復習	国際経済②、戦後のアメリカ経済、1970年代のブレトンウッズ体制の変容を概説する。 ベトナム戦争の経済的意義について、自分なりに調べてみる。 最低限、配布したレジュメ、小テストを見直すこと。
11回	学習内容 予習 復習	国際経済③、オイルショックとその影響につき、日米欧を中心に概説する。 オイルショックについて、自分なりに調べてみる。 最低限、配布したレジュメ、小テストを見直すこと。
12回	学習内容 予習 復習	国際経済④、中国経済の変容。中国経済の発展の経緯や特徴を概説する。 人民公社の時代、改革開放政策について、自分なりに調べてみる。 最低限、配布したレジュメ、小テストを見直すこと。
13回	学習内容 予習 復習	国際経済⑤、開発独裁とアジアの経済成長。韓国を中心に概説する。 開発独裁国家の歩みについて、自分なりに調べてみる。 最低限、配布したレジュメ、小テストを見直すこと。
14回	学習内容 予習 復習	国際経済⑥、ブラザリア合意(1985)とアジア経済危機(1997)を概説する。 第10回～第13回講義を復習しておくこと。 最低限、配布したレジュメ、小テストを見直すこと。
15回	学習内容 予習 復習	国際経済⑦、後半のまとめ。中間テスト形式で、第9回～第14回までの講義をおさらいする。 第9回～第14回までの講義を改めて復習しておくこと。 最低限、配布したレジュメ、小テストを見直すこと。

科目名	国際協力学			科目コード	21150		
英文名	International Cooperation Studies			科目区分	【専門科目】 日本理解専攻(選択)		
担当教員	梶原 健嗣		教員コード	145	単位数	2単位	
開講期間	後期	曜日・時限	月曜日・2時限	授業形態	講義		
学位授与方針との対応	○	1.大学生としての幅広い教養を身につける		2.学修を通じて得た専門的な知識を表現する			
	◎	3.論理的・批判的なものの見方を養う		4.自己の潜在能力を発見し、問題を解決する			
		5.学習の過程で発見した課題を探求する		○	6.卒業後の社会生活を豊かに過ごす基礎を養う		
授業概要	戦後の国際関係、国連を中心に学ぶことで、国際社会の相互依存・関係を学習する。本講義の学習を通じて、今日の国際社会の様々な問題点を体系的に理解して欲しい。						
授業の狙い・到達目標	講義では、まず国際連合の成り立ち、組織を総論として講義する。その後、安全保障理事会をはじめ、国連の主要機関について解説していく。本講義を通じて、今日の国際社会のありよう、また問題点を歴史的に理解できるようになる。						
授業内容のレベル・関連科目	2年次以降を対象とする専門科目であり、若干、発展的内容を含む。最も関連性が高い科目は、国際関係論である。日本と国際社会も、関連性がある。						
授業外学習(予習・復習)	新聞の国際面を読むことが一番効果的な発展学習である。本講義の予習にも、復習にもなる部分があるはずである。講義レジュメの引用資料も、発展的復習として効果的である。			授業外学習に必要な時間	各回4時間、合計60時間		
使用教科書	教員が自作のレジュメを用意し、教科書は使用しない。						
参考書・その他教材	特になし。 ただ、講義レジュメに引用した資料などは、できれば帰宅後の復習のなかで参照してほしい。						
課題に対するフィードバック	特になし。 講義中に行う小テストは、その場で解説する。						
成績評価方法	平常点15%、筆記試験85%(中間テスト(20%)含む)						
成績評価基準	授業の狙いあげた学習到達目標にどのくらい到達したかを、本学の「学業成績判定に関する規程の基準」に基づき評価する。						
履修上の注意事項や学習上の助言	復習をきちんとすること。特に、小テストの復習は入念に。 講義とはいえ、「なぜ?」という問いを大事にしながら学習すること。						
科目に関連した教員の実務経験	特になし						
担当教員への連絡方法	メールでの質問(kajiwara@aikoku-u.org)、またはオフィスアワー(新年度に掲示)。もちろん授業終了後に、直接聞くことも可。						

授業スケジュール

国際協力学

1回	学習内容 予習 復習	イントロダクション、講義の概要やテストの方法などを説明する。 シラバスをよく読んでおくこと。 配布したレジュメを見返すとともに、左ページ「授業外学習」で例示した復習をすること。
2回	学習内容 予習 復習	総論①、第2次世界大戦の原因・経緯から始め、国際連合の誕生までを概説する。 第2次世界大戦の展開について、自分なりに調べてくること。 最低限、配布したレジュメ、小テストを見直すこと。
3回	学習内容 予習 復習	総論②、国連を構成する主要な組織について、体系的に概説する。 国際連盟と国際連合の違いについて、自分なりに調べてみる。 最低限、配布したレジュメ、小テストを見直すこと。
4回	学習内容 予習 復習	各論①、安全保障理事会の役割と特徴を概説し、戦後の集団安全保障体制を理解する。 戦後の国際紛争(武力紛争)について、自分なりに調べてみる。 最低限、配布したレジュメ、小テストを見直すこと。
5回	学習内容 予習 復習	各論②、NPTとIAEAの役割と特徴を概説し、戦後の核管理体制について、理解する。 核兵器禁止条約について、自分なりに調べてみる。 最低限、配布したレジュメ、小テストを見直すこと。
6回	学習内容 予習 復習	各論③、ブレトンウッズ体制の役割と特徴を概説し、戦後の国際経済の基礎を理解する。 世界銀行やIMFの意義について、自分なりに調べてみる。 最低限、配布したレジュメ、小テストを見直すこと。
7回	学習内容 予習 復習	各論④、GATTとWTOの役割と特徴を概説し、戦後の国際貿易体制を理解する。 関税と自由貿易(FTAを含む)について、自分なりに調べてみる。 最低限、配布したレジュメ、小テストを見直すこと。
8回	学習内容 予習 復習	前半のまとめ。第2回～第7回までの講義をおさらいする。 第2回～第7回までの講義を改めて復習してくる。 最低限、配布したレジュメ、小テストを見直すこと。
9回	学習内容 予習 復習	各論⑤、UNCTADの役割と特徴を概説し、戦後の南北問題について、的確に理解する。 南北問題について、自分なりに調べてみる。 最低限、配布したレジュメ、小テストを見直すこと。
10回	学習内容 予習 復習	各論⑥、UNHCRの役割と特徴を概説し、戦後の難民問題について、的確に理解する。 現在の難民問題について、日本の実情も含め、自分なりに調べてみる。 最低限、配布したレジュメ、小テストを見直すこと。
11回	学習内容 予習 復習	各論⑦、IPCCの役割と特徴を概説し、地球温暖化問題の現状と課題について、理解する。 地球温暖化対策の進展と問題点について、自分なりに調べてみる。 最低限、配布したレジュメ、小テストを見直すこと。
12回	学習内容 予習 復習	各論⑧、世界遺産の意義とそれを通じた国際交流について、概説する。 自分の出身地・出身国に世界遺産として、どのようなものがあるか、自分なりに調べてみる。 最低限、配布したレジュメ、小テストを見直すこと。
13回	学習内容 予習 復習	その他①、EU設立の経緯と意義について概説し、戦後ヨーロッパについて理解する。 イギリスのEU離脱について、自分なりに調べてみる。 最低限、配布したレジュメ、小テストを見直すこと。
14回	学習内容 予習 復習	その他②、ODAの役割と特徴を概説し、戦後の開発援助について、理解する。 日本のODAについて、自分なりに調べてみる。 最低限、配布したレジュメ、小テストを見直すこと。
15回	学習内容 予習 復習	後半のまとめ。第9回～第14回までの講義をおさらいする。 第9回～第14回までの講義を改めて復習してくる。 最低限、配布したレジュメ、小テストを見直すこと。

科目名	異文化理解			科目コード	21160		
英文名	Cross-cultural Understanding			科目区分	【専門科目】 日本理解専攻(選択)		
担当教員	清水 聖子	教員コード	132	単位数	2単位		
開講期間	前期	曜日・時限	月曜日・4時限	授業形態	講義		
学位授与方針との対応	◎	1.大学生としての幅広い教養を身につける		2.学修を通じて得た専門的な知識を表現する			
		3.論理的・批判的なものの見方を養う	○	4.自己の潜在能力を発見し、問題を解決する			
	○	5.学習の過程で発見した課題を探求する	○	6.卒業後の社会生活を豊かに過ごす基礎を養う			
授業概要	異文化についての基礎的な知識を得ることと共に、その知識を実生活上を照らし合わせながら異文化理解とは何かを体得していく。						
授業の狙い・到達目標	本講義の狙いは、異文化とは何かを理解し、自分を知り、他人を受容できるような人間として成長できることである。到達目標:①異文化について基礎的な知識を説明することができる。②自分や他人の考え方やものの見方、価値観の違いに気づき、知ることができる。						
授業内容のレベル・関連科目	異文化理解入門レベル						
授業外学習(予習・復習)	教科書に沿って授業を進めるので、事前に読んでくること。授業後も教科書を読み直すこと。			授業外学習に必要な時間	各回4時間、合計60時間		
使用教科書	原沢伊都夫 『異文化理解入門』 研究社						
参考書・その他教材	特になし						
課題に対するフィードバック	教科書に付属している課題を行い、毎回授業中でフィードバックを行う。						
成績評価方法	課題60%、感想文40%で総合的に評価する。						
成績評価基準	学習の到達目標にどのぐらい到達したかを本学の学業成績判定に関する規程の基準に基づき評価する。						
履修上の注意事項や学習上の助言	各章の課題は、各自購入した教科書に直接書き込むスタイルのため、教科書購入は必須。また感想文は、計4回提出してもらう。						
科目に関連した教員の業務経験	特になし						
担当教員への連絡方法	質問はメールでも受け付ける。(mail to : shimizu@aikoku-u.org)件名に科目名・曜日・時限、本文に学籍番号・氏名を必ず記載すること。						

授業スケジュール

異文化理解

1回	学習内容 予習 復習	イントロダクションー授業の目的と内容、授業の進め方などについて学ぶ シラバスを熟読し、授業の概要についておおむね理解しておく 授業の目的・内容、授業の進め方などについて振り返り、理解を深める
2回	学習内容 予習 復習	異文化を理解する 教科書の第1章を読んでくる 教科書を読み直し、自分自身のことと照らし合わせながら学んだことを確認する
3回	学習内容 予習 復習	文化とは(その1) 教科書の第2章を読んでくる 教科書を読み直し、自分自身のことと照らし合わせながら学んだことを確認する
4回	学習内容 予習 復習	文化とは(その2) 教科書の第3章を読んでくる 教科書を読み直し、自分自身のことと照らし合わせながら学んだことを確認する。感想文1を書く。
5回	学習内容 予習 復習	異文化適応 教科書第4章読んでくる 教科書を読み直し、自分自身のことと照らし合わせながら学んだことを確認する
6回	学習内容 予習 復習	違いに気づく 教科書の第6章を読んでくる 教科書を読み直し、自分自身のことと照らし合わせながら学んだことを確認する。感想文2を書く。
7回	学習内容 予習 復習	異文化の認識 教科書の第7章を読んでくる 教科書を読み直し、自分自身のことと照らし合わせながら学んだことを確認する
8回	学習内容 予習 復習	差別を考える 教科書の第8章を読んでくる 教科書を読み直し、自分自身のことと照らし合わせながら学んだことを確認する
9回	学習内容 予習 復習	世界の価値観 教科書の第9章を読んでくる 教科書を読み直し、自分自身のことと照らし合わせながら学んだことを確認する。感想文3を書く。
10回	学習内容 予習 復習	異文化トレーニング 教科書の第10章を読んでくる 教科書を読み直し、自分自身のことと照らし合わせながら学んだことを確認する
11回	学習内容 予習 復習	異文化受容 教科書の第11章を読んでくる 教科書を読み直し、自分自身のことと照らし合わせながら学んだことを確認する
12回	学習内容 予習 復習	自分を知る 教科書の第12章を読んでくる 教科書を読み直し、自分自身のことと照らし合わせながら学んだことを確認する。感想文4を書く。
13回	学習内容 予習 復習	非言語コミュニケーション 教科書の第13章を読んでくる 教科書を読み直し、自分自身のことと照らし合わせながら学んだことを確認する
14回	学習内容 予習 復習	アサーティブ・コミュニケーション 教科書の第14章を読んでくる 教科書を読み直し、自分自身のことと照らし合わせながら学んだことを確認する
15回	学習内容 予習 復習	多文化共生社会の実現に向けて 教科書の第15章を読んでくる 教科書を読み直し、自分自身のことと照らし合わせながら学んだことを確認する

科目名	バイリンガル教育論（東洋文化論Ⅱ）			科目コード	21170		
英文名	Bilingual Education (Oriental Culture II)			科目区分	【専門科目】 日本理解専攻(選択)		
担当教員	清水 聖子		教員コード	132	単位数	2単位	
開講期間	後期	曜日・時限	月曜日・4時限		授業形態	講義	
学位授与方針との対応	<input type="radio"/>	1.大学生としての幅広い教養を身につける	<input checked="" type="radio"/>	2.学修を通じて得た専門的な知識を表現する			
	<input type="radio"/>	3.論理的・批判的なものの見方を養う	<input type="radio"/>	4.自己の潜在能力を発見し、問題を解決する			
	<input type="radio"/>	5.学習の過程で発見した課題を探求する	<input type="radio"/>	6.卒業後の社会生活を豊かに過ごす基礎を養う			
授業概要	バイリンガル教育とは何か、子どもを中心に言語の発達と年齢の関係、バイリンガル教育の理論と実践を紹介していく。						
授業の狙い・到達目標	本講義のねらいは、バイリンガル教育の講義を通して、子どもの言語や異文化環境に対する知見を得て、将来自らの人生に役立つことである。到達目標:バイリンガルに関する理論や実践などの基礎的な知識を身につけることができる。						
授業内容のレベル・関連科目	授業内容のレベルはトピックによってはやや専門的なものもあるが、丁寧に説明することを心がける。なお、「異文化理解」と併せて学習することが望ましい。						
授業外学習(予習・復習)	教科書の内容をより深く理解するために、予習として事前に教科書を読んでおくこと。意味がわからない語彙や日本語表現などがあつたら、調べておくこと。復習として、教科書を読み直すこと。			授業外学習に必要な時間	各回4時間、合計60時間		
使用教科書	中島和子 『完全改訂版 バイリンガル教育の方法』 アルク						
参考書・その他教材	特になし						
課題に対するフィードバック	各章の終わりに確認小テストをする。翌週授業でフィードバック(答え合わせ)を行う。						
成績評価方法	確認小テスト80%、レポート20%で総合的に評価する。						
成績評価基準	学習の到達目標にどのぐらい到達したかを本学の学業成績判定に関する規程の基準に基づき評価する。						
履修上の注意事項や学習上の助言	小テストは教科書持ち込みのみ許可する。したがって、教科書をコピーしたプリントを用いて小テストを受ける場合は成績に反映されないのので、注意してください。						
科目に関連した教員の業務経験	特になし						
担当教員への連絡方法	質問はメールでも受け付ける。(mail to :shimizu@aikoku-u.org) 件名に科目名・曜日・時限、本文に学籍番号・氏名を必ず記載すること。						

授業スケジュール

バイリンガル教育論(東洋文化論Ⅱ)

1回	学習内容 予習 復習	イントロダクションー授業の目的と内容、授業の進め方などについて学ぶ シラバスを熟読し、授業の概要についておおむね理解しておく 授業の目的・内容、授業の進め方などについて振り返り、理解を深める
2回	学習内容 予習 復習	バイリンガルとは何かについて学ぶ 教科書の第1章を読んでくる 教科書を読み直し、学んだことを確認する
3回	学習内容 予習 復習	子どもの母語の発達と年齢について学ぶ 教科書の第2章を読んでくる 教科書を読み直し、学んだことを確認する
4回	学習内容 予習 復習	バイリンガル教育理論(前半) 教科書の第3章(p.36~47)を読んでくる 教科書を読み直し、学んだことを確認する
5回	学習内容 予習 復習	バイリンガル教育理論(後半) 教科書の第3章(p.48~56)を読んでくる 教科書を読み直し、学んだことを確認する
6回	学習内容 予習 復習	家庭で育てるバイリンガル 教科書の第4章を読んでくる 教科書を読み直し、学んだことを確認する
7回	学習内容 予習 復習	イマージョン方式のバイリンガル教育 教科書の第5章を読んでくる 教科書を読み直し、学んだことを確認する
8回	学習内容 予習 復習	年少者英語教育とバイリンガル教育 教科書の第6章を読んでくる 教科書を読み直し、学んだことを確認する
9回	学習内容 予習 復習	マイノリティ言語児童生徒とバイリンガル教育 教科書の第7章を読んでくる 教科書を読み直し、学んだことを確認する
10回	学習内容 予習 復習	海外児童生徒とバイリンガル教育 教科書の第9章を読んでくる 教科書を読み直し、学んだことを確認する
11回	学習内容 予習 復習	バイリンガルと文化の習得 教科書の第10章を読んでくる 教科書を読み直し、学んだことを確認する
12回	学習内容 予習 復習	バイリンガル教育への疑問 教科書の第11章を読んでくる 教科書を読み直し、学んだことを確認する
13回	学習内容 予習 復習	バイリンガル教育の日本の言語教育への貢献(前半) 教科書の第12章(p.237~241)を読んでくる 教科書を読み直し、学んだことを確認する
14回	学習内容 予習 復習	バイリンガル教育の日本の言語教育への貢献(後半) 教科書の第12章(p.241~247)を読んでくる 教科書を読み直し、学んだことを確認する
15回	学習内容 予習 復習	まとめ 教科書を読み返す これまでの授業で取り上げた内容について振り返り、レポートにまとめる

科目名	観光学 I (地域研究IV)				科目コード	21180	
英文名	Tourism Studies I (Area Studies IV)				科目区分	【専門科目】 日本理解専攻(必修)	
担当教員	羽田 利久		教員コード	155	単位数	2単位	
開講期間	前期	曜日・時限	月曜日・1時限	授業形態	講義		
学位授与方針との対応	◎	1.大学生としての幅広い教養を身につける	○	2.学修を通じて得た専門的な知識を表現する			
		3.論理的・批判的なものの見方を養う		4.自己の潜在能力を発見し、問題を解決する			
	○	5.学習の過程で発見した課題を探索する	○	6.卒業後の社会生活を豊かに過ごす基礎を養う			
授業概要	観光は地域と密接な関係にあると言える。地域を理解するための一環として、観光学の基礎的な内容について、国内や海外などの事例を用いながら講義をおこなう。						
授業の狙い・到達目標	地域の良いものを見に行くことが観光であるように、観光は地域がなくては成り立たないものであり、また地域も観光から得る影響は大きい。その関係について観光学から理解するために、観光学全般について学ぶ。観光学の分野は多岐にわたるが、地域についても同様に、国際的な観点も含め、様々な視点から見る必要があることを理解できるようにする。						
授業内容のレベル・関連科目	観光学の入門的なレベルの講義である。観光学の範囲は広い。その要素を絞り込み、初めて受講するものでも理解しやすいように事例を多く用いて授業をおこなう。						
授業外学習(予習・復習)	授業計画を確認して、参考になりそうな事象について事前に確認しておくことが予習に繋がる。授業時に配布する資料や自身で作成したノートを元に、しっかりと復習をおこなうこと。			授業外学習に必要な時間	各回4時間、合計60時間		
使用教科書	教科書は使用せず、その都度レジュメを配布する。						
参考書・その他教材	高橋一夫、大津正和、吉田順一(2010)『1からの観光』碩学舎 島川崇(2020)『新しい時代の観光学概論』ミネルヴァ書房 講義内で参考資料は随時紹介していく。						
課題に対するフィードバック	授業ごとに小テストを課し、そのフィードバックは随時おこなう。その他疑問点があれば次回以降の授業で回答する。						
成績評価方法	授業内容の理解(50%)、授業への貢献度(30%)、小レポート等(20%)により、総合的に評価する。						
成績評価基準	学習の到達目標にどの位到達したかを、本学の学業成績判定に関する規定の基準に基づき評価する。						
履修上の注意事項や学習上の助言	日頃から授業に関連したニュース等を意識して、知識の取得に努めること。 復習を重点的におこなひ、授業内容の理解を深めること。 授業計画は社会情勢や学生の理解度等を勘案して、変更する可能性がある。						
科目に関連した教員の実務経験	旅行会社社員として旅行の企画や広告宣伝など旅行に関する全般的な業務を担当(経験)(第7回～第13回は実務経験を踏まえた講義である)						
担当教員への連絡方法	授業前後での質問、ならびにメールでも受け付ける。メールアドレス hada@aikoku-u.org						

授業スケジュール

観光学 I (地域研究IV)

1回	学習内容 予習 復習	イントロダクション、本講義の目的と内容、授業の進め方について 授業計画を熟読して、授業の概要について理解をして臨むこと。 授業の目的、内容について再度確認をし、理解を深めること。
2回	学習内容 予習 復習	観光が地域にもたらす効果 観光による影響はどのようなものがあるか、考えをまとめておくこと。 授業内容について、配布した資料を元にまとめをおこない、理解を深めること。
3回	学習内容 予習 復習	観光で使われる言葉 (中国語由来の観光、英語由来のツーリズム) 「観光」という単語は何を意味するか、調べておくこと。 授業内容について、配布した資料を元にまとめをおこない、理解を深めること。
4回	学習内容 予習 復習	観光を構成する要素・観光資源 観光を成り立たせるために必要な要素について考えておくこと。 授業内容について、配布した資料を元にまとめをおこない、理解を深めること。
5回	学習内容 予習 復習	世界の観光史 自分が初めてした旅行はいつどういう状況か思い出しておくこと。 授業内容について、配布した資料を元にまとめをおこない、理解を深めること。
6回	学習内容 予習 復習	日本の観光史 自分が初めてした旅行はいつどういう状況か思い出しておくこと。 授業内容について、配布した資料を元にまとめをおこない、理解を深めること。
7回	学習内容 予習 復習	観光関連産業(1) 旅行業、イギリス・トーマスクック社から日本のHISまで 知っている旅行会社の名前を挙げ、どのような旅行を販売しているか調べておくこと。 授業内容について、配布した資料を元にまとめをおこない、理解を深めること。
8回	学習内容 予習 復習	観光関連産業(2) 宿泊産業、日本の旅館と海外のホテルの違いなど 泊まってみたい宿泊施設をとりあげ、その施設について調べておくこと。 授業内容について、配布した資料を元にまとめをおこない、理解を深めること。
9回	学習内容 予習 復習	観光関連産業(3) 交通運輸業1 鉄道会社や航空会社など 交通運輸業にはどのような業種があるか、まとめておくこと。 授業内容について、配布した資料を元にまとめをおこない、理解を深めること。
10回	学習内容 予習 復習	観光関連産業(4) 交通運輸業2 クルーズなど 観光の目的となる交通運輸業とは何か、考えておくこと。 授業内容について、配布した資料を元にまとめをおこない、理解を深めること。
11回	学習内容 予習 復習	観光関連産業(5) 観光施設 テーマパークなど 行ってみたい観光施設、行ったことがある観光施設についてまとめておくこと。 授業内容について、配布した資料を元にまとめをおこない、理解を深めること。
12回	学習内容 予習 復習	観光とマーケティング 旅に出くなる理由について考え、どうすればそれを促すことができるか考えておくこと。 授業内容について、配布した資料を元にまとめをおこない、理解を深めること。
13回	学習内容 予習 復習	観光と情報 紙のガイドブックから海外のオンライントラベルエージェントまで 自分が旅行に行く場合にどのような情報源から情報を得るか、まとめておくこと。 授業内容について、配布した資料を元にまとめをおこない、理解を深めること。
14回	学習内容 予習 復習	観光と国際交流 海外から日本に来る観光客が増えることで起こる影響について考えをまとめておくこと。 授業内容について、配布した資料を元にまとめをおこない、理解を深めること。
15回	学習内容 予習 復習	これまでの授業のまとめと理解度確認 これまでの授業で配布した資料を振り返り、不明点や疑問点を明確にしておくこと。 授業内容全般を振り返り、観光と地域についての理解を深めること。

科目名	観光学Ⅱ（地域研究Ⅴ）			科目コード	21190		
英文名	Tourism Studies Ⅱ (Area Studies Ⅴ)			科目区分	【専門科目】 日本理解専攻（選択）		
担当教員	羽田 利久		教員コード	155	単位数	2単位	
開講期間	後期	曜日・時限	月曜日・1時限	授業形態	講義		
学位授与方針との対応	◎	1.大学生としての幅広い教養を身につける		○	2.学修を通じて得た専門的な知識を表現する		
		3.論理的・批判的なものの見方を養う			4.自己の潜在能力を発見し、問題を解決する		
	○	5.学習の過程で発見した課題を探究する		○	6.卒業後の社会生活を豊かに過ごす基礎を養う		
授業概要	地域や観光関連産業と消費者とを繋ぐ役割をしている組織に焦点を当て、具体的事例を元に講義をおこなう。						
授業の狙い・到達目標	観光によってもたらされる地域や周辺産業への影響、旅行を通じた地域振興等について、旅行業や旅行業に関連する組織の業務を通じて理解できるようになる。さらに、旅行のビジネスモデルの変化から、観光の国際的な潮流の変化について理解することができるようになる。						
授業内容のレベル・関連科目	観光学の入門的なレベルの講義である。観光学Ⅰのなかから、旅行産業に特化して講義をおこなう。初めて受講するものでも理解しやすいように事例を多く用いて授業をおこなう。						
授業外学習（予習・復習）	授業計画を確認して、参考になりそうな事象について事前に確認しておくことが予習に繋がる。授業時に配布する資料や自身で作成したノートを元に、しっかりと復習をおこなうこと。			授業外学習に必要な時間	各回4時間、合計60時間		
使用教科書	教科書は使用せず、その都度レジュメを配布する。						
参考書・その他教材	橋本亮一(2017)『最新<業界の常識>よくわかる旅行業界』日本実業出版社						
課題に対するフィードバック	授業ごとに小テストを課し、そのフィードバックは随時おこなう。その他疑問点があれば次回以降の授業で回答する。						
成績評価方法	授業内容の理解(50%)、授業への貢献度(30%)、小レポート等(20%)により、総合的に評価する。						
成績評価基準	学習の到達目標にどの位到達したかを、本学の学業成績判定に関する規定の基準に基づき評価する。						
履修上の注意事項や学習上の助言	日頃から授業に関連したニュース等を意識して、知識の取得に努めること。復習を重点的におこない、授業内容の理解を深めること。授業計画は社会情勢や学生の理解度等を勘案して、変更する可能性がある。						
科目に関連した教員の実務経験	旅行会社社員として旅行の企画や広告宣伝など旅行に関する全般的な業務を担当（経験）（第2回～第9回は実務経験を踏まえた講義である）						
担当教員への連絡方法	授業前後での質問、ならびにメールでも受け付ける。メールアドレス hada@aikoku-u.org						

授業スケジュール

観光学Ⅱ（地域研究Ⅴ）

1回	学習内容 予習 復習	イントロダクション、本講義の目的と内容、授業の進め方について 授業計画を熟読して、授業の概要について理解をして臨むこと。 授業の目的、内容について再度確認をし、理解を深めること。
2回	学習内容 予習 復習	海外旅行と国内旅行(1) 旅行会社の分類と実態 旅行会社の会社名を調べておくこと。 授業内容について、配布したレジュメを元にまとめをおこない、理解を深めること。
3回	学習内容 予習 復習	海外旅行と国内旅行(2) 旅行の販売 自分が旅行会社を使うのはどのような場合か考えておくこと。 授業内容について、配布したレジュメを元にまとめをおこない、理解を深めること。
4回	学習内容 予習 復習	海外旅行と国内旅行(3) 旅行会社の責任範囲 旅行中に起きるトラブルにはどのようなものが考えられるかまとめておくこと。 授業内容について、配布したレジュメを元にまとめをおこない、理解を深めること。
5回	学習内容 予習 復習	海外旅行と国内旅行(4) 旅行商品の流通 何故「旅行商品」と呼ぶのか、考えをまとめておくこと。 授業内容について、配布したレジュメを元にまとめをおこない、理解を深めること。
6回	学習内容 予習 復習	海外旅行と国内旅行(5) 旅行会社の業務 旅行会社の仕事について思いつくものを列記しておくこと。 授業内容について、配布したレジュメを元にまとめをおこない、理解を深めること。
7回	学習内容 予習 復習	旅行会社と地域振興 観光客が増えると、地域にどのような影響があるか考えをまとめておくこと。 授業内容について、配布したレジュメを元にまとめをおこない、理解を深めること。
8回	学習内容 予習 復習	旅行の広告宣伝手法(1) 紙媒体 旅行会社の店頭や新聞などの紙による旅行広告を意識してみておくこと。 授業内容について、配布したレジュメを元にまとめをおこない、理解を深めること。
9回	学習内容 予習 復習	旅行の広告宣伝手法(2) インターネット 自分が旅行を探す際に閲覧するインターネットのサイトについて調べておくこと。 授業内容について、配布したレジュメを元にまとめをおこない、理解を深めること。
10回	学習内容 予習 復習	旅行の変化(1) 海外旅行の変遷 旅行の目的は変化しているが、それはどのようなものが考えられるか、まとめておくこと。 授業内容について、配布したレジュメを元にまとめをおこない、理解を深めること。
11回	学習内容 予習 復習	旅行の変化(2) 旅行と食事 旅行の目的として食事が挙げられることが多いが、どのようなものがあるか調べておくこと 授業内容について、配布したレジュメを元にまとめをおこない、理解を深めること。
12回	学習内容 予習 復習	旅行の変化(3) ユニバーサルツーリズム ユニバーサルツーリズムとはどういったものか、自分なりに調べておくこと。 授業内容について、配布したレジュメを元にまとめをおこない、理解を深めること。
13回	学習内容 予習 復習	旅行の変化(4) 着地型観光 観光する場所を選ぶ際、誰からの情報を元にするか、自分の経験から考えておくこと。 授業内容について、配布したレジュメを元にまとめをおこない、理解を深めること。
14回	学習内容 予習 復習	旅行のビジネスモデルの変化(5) クルーズ クルーズ旅行と聞いて思い浮かぶイメージは何か、考えをまとめておくこと。 授業内容について、配布したレジュメを元にまとめをおこない、理解を深めること。
15回	学習内容 予習 復習	これまでの授業のまとめと理解度確認 これまでの授業で配布したレジュメを振り返り、不明点や疑問点を明確にしておくこと。 授業内容全般を振り返り、地域と旅行業についての理解を深めること。

科目名	地域文化と観光*			科目コード	21200	
英文名	Tourism and Local Cultures			科目区分	【専門科目】 日本理解専攻(選択)	
担当教員	羽田 利久		教員コード	155	単位数	2単位
開講期間	後期	曜日・時限	木曜日・3時限	授業形態	講義	
学位授与方針との対応	◎	1.大学生としての幅広い教養を身につける		2.学修を通じて得た専門的な知識を表現する		
		3.論理的・批判的なものの見方を養う		4.自己の潜在能力を発見し、問題を解決する		
	○	5.学習の過程で発見した課題を探索する	○	6.卒業後の社会生活を豊かに過ごす基礎を養う		
授業概要	日本各地にある様々な地域文化を元にした観光資源について、映像などを使用しながら理解しやすく説明する。なお、観光資源とは観光の対象となる可能性を持っている素材のことであり、様々なものが対象となる。					
授業の狙い・到達目標	人と人のかかわり方が変化している現在、観光振興を図ることにより交流人口を増加させるとい、新たな街づくりの手法が模索されている。本講義を受講することにより、地域文化や伝統を含有する人文観光資源を通じて地域の理解を深め、現代社会ならびに日本の地域について把握することができるようになる。					
授業内容のレベル・関連科目	観光学の入門的なレベルの講義である。 観光全般について理解を深めるために、観光学Ⅰ、Ⅱの履修を推奨する。					
授業外学習(予習・復習)	授業計画を確認して、参考になりそうな事象について事前に確認しておくことが予習に繋がる。授業時に配布する資料や自身で作成したノートを元に、しっかりと復習をおこなうこと。			授業外学習に必要な時間	各回4時間、合計60時間	
使用教科書	教科書は使用せず、その都度レジュメを配布する。					
参考書・その他教材	昭文社(2020)『旅地図日本』、昭文社 旅行のパンフレットやガイドブック、時刻表などは積極的に手にして目を通すこと。					
課題に対するフィードバック	授業ごとに小テストを課し、そのフィードバックは随時おこなう。 その他疑問点があれば次回以降の授業で回答する。					
成績評価方法	授業内容の理解(50%)、授業への貢献度(30%)、小レポート等(20%)により、総合的に評価する。					
成績評価基準	学習の到達目標にどの位到達したかを、本学の学業成績判定に関する規定の基準に基づき評価する。					
履修上の注意事項や学習上の助言	日頃から授業に関連したニュース等を意識して、知識の取得に努めること。 復習を重点的におこなう、授業内容の理解を深めること。 授業計画は社会情勢や学生の理解度等を勘案して、変更する可能性がある。					
科目に関連した教員の実務経験	旅行会社社員として旅行の企画や広告宣伝など旅行に関する全般的な業務を担当(経験)(第3回～第13回は実務経験を踏まえた講義である)					
担当教員への連絡方法	授業前後での質問、ならびにメールでも受け付ける。メールアドレス hada@aikoku-u.org					

授業スケジュール

地域文化と観光

1回	学習内容 予習 復習	イントロダクション、本講義の目的と内容、授業の進め方について 授業計画を熟読して、授業の概要について理解をしておくこと。 授業の目的、内容について再度確認をし、理解を深めること。
2回	学習内容 予習 復習	観光資源の種類と分類・人文、自然、社会、それぞれの観光資源の違い 観光資源とはどのようなものが考えられるか、まとめておくこと。 授業内容について、配布したレジュメを元にまとめをおこない、理解を深めること。
3回	学習内容 予習 復習	日本の人文観光資源(1) 神社、寺院、教会 関東地方で有名な神社や寺を見つけて調べておくこと。 授業内容について、配布したレジュメを元にまとめをおこない、理解を深めること。
4回	学習内容 予習 復習	日本の人文観光資源(2) 城跡、城郭、宮殿 日本の国宝となっている城について調べておくこと。 授業内容について、配布したレジュメを元にまとめをおこない、理解を深めること。
5回	学習内容 予習 復習	日本の人文観光資源(3) 集落、街、郷土景観 観光地として有名な集落、街はどのような場所があるか調べておくこと。 授業内容について、配布したレジュメを元にまとめをおこない、理解を深めること。
6回	学習内容 予習 復習	日本の人文観光資源(4) 街道、古道 道をたどる観光とはどういうことを指すのか、自分なりに考えをまとめておくこと。 授業内容について、配布したレジュメを元にまとめをおこない、理解を深めること。
7回	学習内容 予習 復習	日本の人文観光資源(5) 建造物 橋や塔など、著名な建造物とはどのようなものがあるか、調べておくこと。 授業内容について、配布したレジュメを元にまとめをおこない、理解を深めること。
8回	学習内容 予習 復習	日本の人文観光資源(6) 博物館、美術館 行ってみて素晴らしかった、あるいは行ってみたい博物館、美術館について調べておくこと。 授業内容について、配布したレジュメを元にまとめをおこない、理解を深めること。
9回	学習内容 予習 復習	日本の人文観光資源(7) 公園、庭園 行ってみて素晴らしかった、あるいは行ってみたい公園、庭園について調べておくこと。 授業内容について、配布したレジュメを元にまとめをおこない、理解を深めること。
10回	学習内容 予習 復習	日本の人文観光資源(8) 宗教と旅 旅と宗教の具体的な事例とはどのようなものがあるか、確認しておくこと。 授業内容について、配布したレジュメを元にまとめをおこない、理解を深めること。
11回	学習内容 予習 復習	日本の人文観光資源(9) 年中行事、祭り 見に行きたい日本の祭りを一つ取り上げ、その内容について調べておくこと。 授業内容について、配布したレジュメを元にまとめをおこない、理解を深めること。
12回	学習内容 予習 復習	日本の人文観光資源(10) 食 日本らしい食とはどのようなものか、自分なりの意見をまとめておくこと。 授業内容について、配布したレジュメを元にまとめをおこない、理解を深めること。
13回	学習内容 予習 復習	日本の人文観光資源(11) 温泉 日本の温泉地を一つ取り上げ、その内容について調べておくこと。 授業内容について、配布したレジュメを元にまとめをおこない、理解を深めること。
14回	学習内容 予習 復習	新しい人文観光資源 これから人文観光資源を加えるとしたら、どのようなものがあるか考えておくこと。 授業内容について、配布したレジュメを元にまとめをおこない、理解を深めること。
15回	学習内容 予習 復習	これまでの授業のまとめ これまでの授業で配布したレジュメを振り返り、不明点や疑問点を明確にしておくこと。 授業内容全般を振り返り、人文観光資源についての理解を深めること。

科目名	観光地理学（地誌学概論）				科目コード	21210	
英文名	Tourism Geography (Outline of Regional Geography)				科目区分	【専門科目】 日本理解専攻(選択)	
担当教員	栗林 慶		教員コード	158	単位数	2単位	
開講期間	前期	曜日・時限	木曜日・3時限		授業形態	講義	
学位授与方針との対応	◎	1.大学生としての幅広い教養を身につける		○	2.学修を通じて得た専門的な知識を表現する		
		3.論理的・批判的なものの見方を養う			4.自己の潜在能力を発見し、問題を解決する		
	○	5.学習の過程で発見した課題を探索する		○	6.卒業後の社会生活を豊かに過ごす基礎を養う		
授業概要	観光について、主に地理学の観点から取り上げる。様々な地域の事例から、地域が持つ観光資源や、観光産業によって生じる地域の変化について理解を深める。						
授業の狙い・到達目標	観光地理学の基本的な考え方を理解し、観光地域の立地や形成・発展要因、観光による地域の変化について考察できるようになる。						
授業内容のレベル・関連科目	必要となる前提知識や履修科目は設定しない。						
授業外学習(予習・復習)	講義内容から疑問点や関心を探し、自分の知っている地域にも当てはめて考えながら予習・復習をすること。授業内課題の準備として、講義の内容はよく復習し、不明な用語は調べておくこと。			授業外学習に必要な時間	各回4時間、合計60時間		
使用教科書	特になし						
参考書・その他教材	講義で使用したものについては、適宜紹介する。						
課題に対するフィードバック	提出課題については、各自の答案を評価し、次週以降に返却する。また、適宜、補足説明やコメントを付記する。						
成績評価方法	平常点(30%) 授業内課題(40%) 定期試験(30%) 平常点は、①授業への参加意欲 ②発言等による授業への貢献 ③周囲との共同・協調の各項目を評価する。						
成績評価基準	学習の到達目標にどのくらい到達したかを本学の学業成績判定に関する規程の基準に基づき評価する。						
履修上の注意事項や学習上の助言	より発展的な内容を学びたい場合は、参考図書等を案内する。						
科目に関連した教員の業務経歴	特になし						
担当教員への連絡方法	質問、連絡等はメール(kei@aikoku-u.org)にて受け付ける。 教員は必ず返信をするので、もし返信がない場合は各自、連絡方法を再確認すること。						

授業スケジュール

観光地理学（地誌学概論）

1回	学習内容 予習 復習	イントロダクション 観光地理学とは何か シラバスを読み、授業内容について確認しておく。 授業内容と進め方について、確認しておく。
2回	学習内容 予習 復習	現代の観光産業と地域① 観光業の歴史について予習しておく。 予習の内容と講義の内容を確認し、理解を深める。
3回	学習内容 予習 復習	現代の観光産業と地域② 観光業にどのような特徴や役割があるかを考えておく。 予習の内容と講義の内容を確認し、理解を深める。
4回	学習内容 予習 復習	世界の観光地 世界にどのような著名な観光地があるか、確認しておく。 予習の内容と講義の内容を確認し、理解を深める。
5回	学習内容 予習 復習	日本の観光地 行ったことのある観光地を確認しておく。 予習の内容と講義の内容を確認し、理解を深める。
6回	学習内容 予習 復習	都市観光① 東京の観光地に関して、その成り立ちや特徴を調べておく。 予習の内容と講義の内容を確認し、理解を深める。
7回	学習内容 予習 復習	都市観光② 京都・大阪の観光地に関して、その成り立ちや特徴を調べておく。 予習の内容と講義の内容を確認し、理解を深める。
8回	学習内容 予習 復習	農村と自然の観光① 農村地域や自然に関する観光地を調べておく。 予習の内容と講義の内容を確認し、理解を深める。
9回	学習内容 予習 復習	農村と自然の観光② 農村地域や自然に関する観光地を調べておく。 予習の内容と講義の内容を確認し、理解を深める。
10回	学習内容 予習 復習	観光資源と地域 フードツーリズム、祭礼文化 観光資源にはどのような種類が存在するか、調べておく。 予習の内容と講義の内容を確認し、理解を深める。
11回	学習内容 予習 復習	観光資源と地域 コンテンツツーリズム サブカルチャーを用いた観光振興について、事例を調べておく。 予習の内容と講義の内容を確認し、理解を深める。
12回	学習内容 予習 復習	観光資源と地域 ダークツーリズム ダークツーリズムという用語についてあらかじめ調べ、どのような地域や施設が該当するか考える。 予習の内容と講義の内容を確認し、理解を深める。
13回	学習内容 予習 復習	身近な観光地 千葉県① 千葉県内の行ったことのある観光地を確認しておく。 予習の内容と講義の内容を確認し、理解を深める。
14回	学習内容 予習 復習	身近な観光地 千葉県② 千葉県内の行ったことのある観光地を確認しておく。 予習の内容と講義の内容を確認し、理解を深める。
15回	学習内容 予習 復習	講義のふりかえり 各回の資料を読み返し、授業内容を振り返っておく。 予習の内容と講義の内容を確認し、理解を深める。

科目名	観光学フィールドワーク*			科目コード	21220	
英文名	Fieldwork of Tourism Studies			科目区分	【専門科目】 日本理解専攻(選択)	
担当教員	羽田 利久		教員コード	155	単位数	2単位
開講期間	後期	曜日・時限	金曜日・3時限	授業形態	実習	
学位授与方針との対応	<input type="radio"/>	1.大学生としての幅広い教養を身につける	<input type="radio"/>	2.学修を通じて得た専門的な知識を表現する		
	<input type="radio"/>	3.論理的・批判的なものの見方を養う	<input type="radio"/>	4.自己の潜在能力を発見し、問題を解決する		
	<input checked="" type="radio"/>	5.学習の過程で発見した課題を探索する	<input type="radio"/>	6.卒業後の社会生活を豊かに過ごす基礎を養う		
授業概要	観光関連の基礎知識を習得しつつ、観光的な視点で地域を見る視点を養う事を旨とする。フィールドワークを通じて、地域への誘客のための方策を考える。期末試験の代わりとして、発表会を実施する。					
授業の狙い・到達目標	観光関連産業は人と人が関わりあう産業であり、理論的な裏付けだけではなく、実際に現場に出て体感することが重要である。本講義を通じて、学生が独自の視点から社会を観察し、そこから探求することの手法を体得できるようになる。					
授業内容のレベル・関連科目	大学を出て外で学ぶという事は、社会との関わり方について理解をする必要がある。社会人としてのマナーなどをきちんとわかまえることを意識すること。観光学Ⅰ、Ⅱの受講を推奨する。					
授業外学習(予習・復習)	授業の前後にフィールドワークに向けて必須となる参考文献を読んでおくこと。また、授業などでの指導を元にして自身で研究内容を発展させていくこと。			授業外学習に必要な時間	各回4時間、合計60時間	
使用教科書	教科書は使用せず、その都度資料を配布する。					
参考書・その他教材	その都度指示を行う。					
課題に対するフィードバック	その都度確認をおこない、学生が正しく理解し、学習することを目指す					
成績評価方法	期末発表(70%)、平常点(30%)					
成績評価基準	学習の到達目標にどの位到達したかを、本学の学業成績判定に関する規定の基準に基づき評価する。					
履修上の注意事項や学習上の助言	自ら主体的に学ぶ姿勢をとることを必須とする。ワード、パワーポイントでの資料作成が必要となる。					
科目に関連した教員の業務経験	旅行会社社員として旅行の企画や広告宣伝など旅行や観光に関する全般的な業務を担当(経験)					
担当教員への連絡方法	授業前後での質問、ならびにメールでも受け付ける。メールアドレス hada@aikoku-u.org					

授業スケジュール

観光学フィールドワーク

1回	学習内容 予習 復習	イントロダクション、本講義の目的と内容、授業の進め方について 授業計画を熟読して、授業の概要について理解しておくこと。 授業の目的、内容について再度確認をし、理解を深めること。
2回	学習内容 予習 復習	フォトコーディング1 スマートフォンやデジタルカメラで気になるモノの写真を50枚以上撮ること 授業内で整理した写真を見返す
3回	学習内容 予習 復習	知図による観察と写生1 撮影した写真を元に、気になった対象物をピックアップする 授業内で描いた内容について、なぜ興味を持ったのか振り返る
4回	学習内容 予習 復習	知図による観察と写生2 気になった対象物に対して、仮説を導く 授業内で描いた内容について、なぜ興味を持ったのか振り返る
5回	学習内容 予習 復習	知図による観察と写生3 気になった対象物に対して、文章を描く 授業内で描いた内容について、なぜ興味を持ったのか振り返る
6回	学習内容 予習 復習	知図づくり1 集中して調べたいテーマを絞る 描いた知図をまとめて、そこから自分の興味がどこにあるのかを探す 自分の知りたいこと、現在の仮説などを文章化する
7回	学習内容 予習 復習	知図づくり2 さらに歩いて、知図を拡充する 描いた知図をまとめて、そこから自分の興味がどこにあるのかを探す 自分の知りたいこと、現在の仮説などを文章化する
8回	学習内容 予習 復習	資料探索1 探究テーマに関する文献を徹底的に探す 自分の興味について、さらに深く考えておく 大学の図書館以外に資料はどこにあるか調べる
9回	学習内容 予習 復習	資料探索2 見つけた文献をカードに書き起こす 見つけた文献について読み込んでおく 文献と自分の考えの双方でカードの枚数を増やす
10回	学習内容 予習 復習	資料探索3 文献カードと自分の考えを合わせてみる 文献と自分の考えのカードを見比べておく あわせたカードを元に自分の新たな考えを導き出す
11回	学習内容 予習 復習	資料探索4 仮説を生成する 文献と自分の考えのカードを見比べておく あわせたカードを元に自分の新たな考えを導き出す
12回	学習内容 予習 復習	文章化の訓練 寺田寅彦の文章構造分析 寺田寅彦「蓑虫と蜘蛛」を読んでくる 文章の特徴を考える
13回	学習内容 予習 復習	文章化の訓練 自分の文章に関する表現ルールを作る 先週の文章構造分析から、自分のルールを作る ルールに従い自分の調査した内容の文章化を進める
14回	学習内容 予習 復習	文章化の訓練 自分の調査内容の文章化を進める 自分の調査内容を振り返る 自分の記述した内容がルールにのっとっているか確認する
15回	学習内容 予習 復習	期末発表と総括 文章内容を推敲する 授業全体で疑問点や新たな課題を見つけ出す

科目名	日本研究（現代の社会）			科目コード	21230		
英文名	Japan Studies（Contemporary Economy）			科目区分	【専門科目】 日本理解専攻（選択）		
担当教員	栗林 慶		教員コード	158	単位数	2単位	
開講期間	後期	曜日・時限	木曜日・2時限		授業形態	講義	
学位授与方針との対応	○	1.大学生としての幅広い教養を身につける		◎	2.学修を通じて得た専門的な知識を表現する		
		3.論理的・批判的なものの見方を養う			4.自己の潜在能力を発見し、問題を解決する		
	○	5.学習の過程で発見した課題を探索する		○	6.卒業後の社会生活を豊かに過ごす基礎を養う		
授業概要	今日の様々な社会問題へアプローチする土台として、産業活動の側面から日本の地域システムと諸地域の変貌を考える。						
授業の狙い・到達目標	グローバル経済の下におかれた、日本の諸産業の地域展開、大都市圏と地方圏の実情について社会経済地理の視点から理解し、自地域と他地域の比較の上で今日の地域社会問題を考察できる。						
授業内容のレベル・関連科目	必要となる前提知識や履修科目は設定しない。						
授業外学習（予習・復習）	日頃から新聞に目を通したり、ニュースをよく確認するなどして、社会と経済との関係について見識を深めておくこと。授業後には、不明な用語や概念についてよく調べて、次回の授業までに不明点を残さないようにすること。			授業外学習に必要な時間	各回4時間、合計60時間		
使用教科書	特になし						
参考書・その他教材	講義で使用したものについては、適宜紹介する。						
課題に対するフィードバック	提出課題については、各自の答案を評価し、次週以降に返却する。また、適宜、補足説明やコメントを付記する。						
成績評価方法	平常点(30%) 授業内課題(40%) 定期試験(30%) 平常点は、①授業への参加意欲 ②発言等による授業への貢献 ③周囲との共同・協調の各項目を評価する。						
成績評価基準	学習の到達目標にどのくらい到達したかを本学の学業成績判定に関する規程の基準に基づき評価する。						
履修上の注意事項や学習上の助言	より発展的な内容を学びたい場合は、参考図書等を案内する。						
科目に関連した教員の実務経歴	特になし						
担当教員への連絡方法	質問、連絡等はメール(kei@aikoku-u.org)にて受け付ける。 教員は必ず返信をするので、もし返信がない場合は各自、連絡方法を再確認すること。						

授業スケジュール

日本研究（現代の社会）

1回	学習内容 予習 復習	イントロダクション ～社会と経済の地理的關係について～ シラバスを読み、授業内容について確認しておくこと。 授業内容と進め方について、確認しておくこと。
2回	学習内容 予習 復習	グローバル化のなかの地域と経済 今日のグローバル経済がもたらした光と影について調べておくこと。 予習の内容と講義の内容を確認し、理解を深めておくこと。
3回	学習内容 予習 復習	日本の人口集積とその動向 日本の人口動態、特に東京圏に関するニュースをあらかじめ調べておくこと。 予習の内容と講義の内容を確認し、理解を深めておくこと。
4回	学習内容 予習 復習	農業生産の動向 日本の農業生産の歴史や今日の課題について、ニュース等を調べておくこと。 予習の内容と講義の内容を確認し、理解を深めておくこと。
5回	学習内容 予習 復習	工業生産の動向① 日本の工業配置の形成 日本の工業生産の歴史や今日の課題について、ニュース等を調べておくこと。 予習の内容と講義の内容を確認し、理解を深めておくこと。
6回	学習内容 予習 復習	工業生産の動向② 現代の日本工業 日本の工業生産の歴史や今日の課題について、ニュース等を調べておくこと。 予習の内容と講義の内容を確認し、理解を深めておくこと。
7回	学習内容 予習 復習	流通産業の動向 日本の流通産業の歴史や今日の課題について、ニュース等を調べておくこと。 予習の内容と講義の内容を確認し、理解を深めておくこと。
8回	学習内容 予習 復習	東京大都市地域① 首都東京の形成 東京の形成の歴史について調べておくこと。 予習の内容と講義の内容を確認し、理解を深めておくこと。
9回	学習内容 予習 復習	東京大都市地域② 首都圏計画の理想と現実 東京の都市計画について調べておくこと。 予習の内容と講義の内容を確認し、理解を深めておくこと。
10回	学習内容 予習 復習	東京大都市地域③ 京浜(東京)工業地帯 東京近辺に存立する工業について調べておくこと。 予習の内容と講義の内容を確認し、理解を深めておくこと。
11回	学習内容 予習 復習	東京大都市地域④ 現代の東京問題 東京における様々な都市問題について調べておくこと。 予習の内容と講義の内容を確認し、理解を深めておくこと。
12回	学習内容 予習 復習	周辺地域① 東北地方：「分工場経済」の問題と東日本大震災 東北の文化、経済について調べ、東日本大震災の被災状況について確認しておくこと。 予習の内容と講義の内容を確認し、理解を深めておくこと。
13回	学習内容 予習 復習	周辺地域② 四国地方：豊かな風土と過疎問題 四国の文化、経済について調べ、合わせて少子高齢化問題について調べておくこと。 予習の内容と講義の内容を確認し、理解を深めておくこと。
14回	学習内容 予習 復習	経済地域政策の動向と展望① 日本の産業や地域経済がどのように計画されていたか、歴史的経緯について調べておくこと。 予習の内容と講義の内容を確認し、理解を深めておくこと。
15回	学習内容 予習 復習	経済地域政策の動向と展望② 前回学んだ内容をよく確認しておくこと。 前回学んだ内容と合わせて、経済地域政策についてよく復習しておくこと。

科目名	華道演習（文化芸術演習）			科目コード	21240	
英文名	Practice of Japanese Flour Arrangement			科目区分	【専門科目】 日本理解専攻（選択）	
担当教員	木原 邦子		教員コード	259	単位数	2単位
開講期間	前期	曜日・時限	水曜日・2時限		授業形態	演習
学位授与方針との対応	<input type="radio"/>	1.大学生としての幅広い教養を身につける			2.学修を通じて得た専門的な知識を表現する	
	<input type="radio"/>	3.論理的・批判的なものの見方を養う			4.自己の潜在能力を発見し、問題を解決する	
	<input type="radio"/>	5.学習の過程で発見した課題を探求する	<input checked="" type="radio"/>	6.卒業後の社会生活を豊かに過ごす基礎を養う		
授業概要	いけばなの歴史と小原流の基本のかたちを指導する。500年以上の永きにわたる伝統あるいけばなの基本を修得することができる。毎時間実際に各自で花をいけて、基本の修得と美的感覚を養い、人間形成の助言としたい。					
授業の狙い・到達目標	季節の移り変わりに自然の様々な変化を感じ、感動できる感受性を育み、そうした自然との触れ合いを通じて豊かな人間形成の基礎を培うことができる。					
授業内容のレベル・関連科目	いけばなをするうえで前提となるお花の扱い方や花材の選び方を学ぶ。そして「たてるかたち」「かたむけるかたち」としたシンプルな型をいけることで、少ない花材数でも美しくいけられる技術が身に付く。なお、学ぶ知識や技術は、小原流いけばな全体の基礎となる。					
授業外学習（予習・復習）	定められた「かたち」の中で「かたちの特徴を理解し、当日の花材をどのような形にどこへ挿せばよいか基本に忠実にいける。			授業外学習に必要な時間	各回4時間、合計60時間	
使用教科書	特になし					
参考書・その他教材	小原宏貴『小原流花型カード』一般財団法人 小原流事業部 花材代が授業1回につき300円かかる（試験日の花材代も含む）					
課題に対するフィードバック	特になし					
成績評価方法	実技試験70%、授業への貢献度30%で評価する。					
成績評価基準	学習の到達目標にどのくらい到達したかを本学の学業成績判定に関する規程の基準に基づき評価する。					
履修上の注意事項や学習上の助言	当日の花材と真摯に向き合い花と語ろう。花材により「いけるかたち」の順が変わる場合がある。					
科目に関連した教員の実務経験	千葉県茶華道協会主催の華道展に出品。					
担当教員への連絡方法	参考書に連絡先を記入している。					

授業スケジュール

華道演習（文化芸術演習）

1回	学習内容 予習 復習	イントロダクション、講義の概要および学習のポイントを概説する。テストの方法も説明する。 シラバスを読んでおくこと。 授業内容を振り返ること。
2回	学習内容 予習 復習	華道の歴史、伝統文化いけばなの歴史を講義する。実技指導も行う。 参考書を読んでおくこと。 授業内容を振り返ること。当日使用した花材を使って、自宅でいけ直すこと。
3回	学習内容 予習 復習	小原流創始、初代から5世までの歴代家元について講義する。実技指導も行う。 参考書を読んでおくこと。 当日使用した花材を使って、自宅でいけ直すこと。
4回	学習内容 予習 復習	花形全般について、講義する。「たてるかたち」の実技指導も行う。 参考書を読んでおくこと。 当日使用した花材を使って、自宅でいけ直すこと。
5回	学習内容 予習 復習	花意匠基本のいけ方について、講義する。「たてるかたち」の実技指導も行う。 参考書を読んでおくこと。 当日使用した花材を使って、自宅でいけ直すこと。
6回	学習内容 予習 復習	花意匠基本のいけ方について、講義する。「たてるかたち」の実技指導も行う。 参考書を読んでおくこと。 当日使用した花材を使って、自宅でいけ直すこと。
7回	学習内容 予習 復習	役枝について、講義する。「かたむけるかたち」の実技指導も行う。 参考書を読んでおくこと。 当日使用した花材を使って、自宅でいけ直すこと。
8回	学習内容 予習 復習	役枝について、講義する。「かたむけるかたち」の実技指導も行う。 参考書を読んでおくこと。 当日使用した花材を使って、自宅でいけ直すこと。
9回	学習内容 予習 復習	花材取合せについて、講義する。「かたむけるかたち」の実技指導も行う。 参考書を読んでおくこと。 当日使用した花材を使って、自宅でいけ直すこと。
10回	学習内容 予習 復習	花意匠の展開について、講義する。「ひらくかたち」の実技指導も行う。 参考書を読んでおくこと。 当日使用した花材を使って、自宅でいけ直すこと。
11回	学習内容 予習 復習	水揚法について、講義する。「ひらくかたち」の実技指導も行う。 参考書を読んでおくこと。 当日使用した花材を使って、自宅でいけ直すこと。
12回	学習内容 予習 復習	花意匠の展開について、講義する。「ひらくかたち」の実技指導も行う。 参考書を読んでおくこと。 当日使用した花材を使って、自宅でいけ直すこと。
13回	学習内容 予習 復習	花意匠の展開「ならぶかたち」について、講義する。花意匠のいけ方について反復練習を行う。 参考書を読んでおくこと。実技指導も行う。 当日使用した花材を使って、自宅でいけ直すこと。
14回	学習内容 予習 復習	全体のまとめ、本演習のまとめと復習を行う。希望のかたちの実技指導も行う。 今まで学習した内容について、総復習をしてくる。 演習を踏まえ、改めて総復習をする。
15回	学習内容 予習 復習	授業進度の調整日。希望のかたちの実技指導も行う。 実技試験に向けて、どの形でいけるか考えておくこと。 自分で花を買って、花意匠で学んだ3つのかたちをいけてみる。

科目名	ポップカルチャー論Ⅰ（現代文化論）			科目コード	21260		
英文名	Japanese Popculture I (Contemporary Culture)			科目区分	【専門科目】 日本理解専攻(選択)		
担当教員	さちみ りほ		教員コード	252	単位数	2単位	
開講期間	前期	曜日・時限	金曜日・3時限	授業形態	講義		
学位授与方針との対応	<input type="radio"/>	1.大学生としての幅広い教養を身につける		<input type="radio"/>	2.学修を通じて得た専門的な知識を表現する		
	<input type="radio"/>	3.論理的・批判的なものの見方を養う		<input type="radio"/>	4.自己の潜在能力を発見し、問題を解決する		
	<input type="radio"/>	5.学習の過程で発見した課題を探求する		<input checked="" type="radio"/>	6.卒業後の社会生活を豊かに過ごす基礎を養う		
授業概要	漫画論である。日本の漫画製作のありようを学び、その影響力等への理解を深めることを目的とする。						
授業の狙い・到達目標	今や日本を代表するポップカルチャーである漫画を学ぶことによって、「おもしろい話はなぜ面白いのか」その理由と手法を理解できるようになる。						
授業内容のレベル・関連科目	ポップカルチャー論Ⅱと合わせて受講することを推奨するが、ポップカルチャー論Ⅰだけでも受講可。						
授業外学習(予習・復習)	自分の好きな漫画や漫画ジャンルを選び、何故それが好きか自分の言葉で語れるようしておくこと。			授業外学習に必要な時間	各回4時間、合計60時間		
使用教科書	さちみりほ『ローゼリア王国物語』、さちみりほ『夢やしきへようこそ』 その他短篇集等						
参考書・その他教材	さちみりほ『銀のヴェルキュリアス』ドラマCD等						
課題に対するフィードバック	レポートや評論等はその都度、添削する						
成績評価方法	授業への取り組み(50%)、課題・レポート(50%)						
成績評価基準	到達目標の達成度を、本学の学業成績判定に関する規程の基準に基づき評価する。						
履修上の注意事項や学習上の助言	たくさんの漫画をただ読むのだけではなく、人物やセリフの重要度を探りながら読むようにする。好きな漫画を熱く語れることも、つまらない漫画を批判できる能力も大切。						
科目に関連した教員の実務経験	漫画家 平成元年 小学館新人コミック大賞受賞 小学館 秋田書店 ハーパーコリンズ等で執筆中						
担当教員への連絡方法	メールでも受け取ります。(メールアドレスは初回の講義で提示する) 件名に科目名・曜日・時限、本文に学籍番号・氏名を必ず記載すること。						

授業スケジュール

ポップカルチャー論Ⅰ（現代文化論）

1回	学習内容 予習 復習	漫画とは何か（世界における日本の漫画の影響など） 授業概要を理解しておくこと 好きな漫画を一冊読んでおくこと
2回	学習内容 予習 復習	各自に好きな漫画の面白さを語ってもらい、なぜ面白いかをディスカッションする 好きな漫画を一冊読んでおくこと 描き手の立場になって、漫画を読んでいる
3回	学習内容 予習 復習	漫画の構成力、キャラクター表現、映画的手法について 課題の漫画を読んでおく 構成、効果の視点から読み返す
4回	学習内容 予習 復習	背景の効果的な入れ方、演出について 背景に注意して読んでみる。背景の上手い漫画を探す 作者の狙いを考えながら読む
5回	学習内容 予習 復習	効果、ライティング、逆光、カゲ、ベタ等の説明 上記に注意して読んでみる ライティングを変えた場合の効果等を考える
6回	学習内容 予習 復習	アップ→ロング→人物のない、コマ等の動き、演出 上記に注意して読んでみる 他の漫画の構成に注目する
7回	学習内容 予習 復習	これまでの講義で説明してきたことを振り返る マンガの効果の説明ができるようにする 楽しみながら作り手の工夫を理解しつつ読む
8回	学習内容 予習 復習	マンガの面白さについて、編集になったつもりで解説する。 何が面白いのか説明できるようにする 面白い意味と理由を理解しながら読む
9回	学習内容 予習 復習	キャラクター作り（キャラクターとは何か、主役と脇役のバランスなど） 主役の動きに注目して読む 主役の魅力の理由を理解する
10回	学習内容 予習 復習	脇役の必要性、役割とバランスなど 魅力的な脇役が登場する漫画読む 脇役の魅力の理由を理解する
11回	学習内容 予習 復習	ストーリーのバランス、起承転結のページ配分について 起承転結の意味を理解しておく 読切マンガの何が起でどこが転に当たるか理解する
12回	学習内容 予習 復習	ストーリーの成り立ち、セリフとモノローグの意味 小説、映画とマンガの違い、共通点を考えておく マンガ独特の効果を知る
13回	学習内容 予習 復習	イントロ、見開き、ヤマ場、ラストなどの役割について それぞれ、どこに当たるか考えておく 各場面の役割を念頭に置いて読み返す
14回	学習内容 予習 復習	これまでの総括、各自の漫画論を語る、レポート提出 好きな一冊を選び、その理由を語れるように読んでおく 他の人が勧めた本も読んでみる
15回	学習内容 予習 復習	講義への各自の感想、レポートを発表し合い、感想を伝えあう 各自のレポートや講義について、感想を述べられるようにしておく 様々な視点から漫画を理解し、実生活に生かしてゆく

科目名	ポップカルチャー論Ⅱ（日本文化研究）			科目コード	21270		
英文名	Japanese Popculture Ⅱ (Japanese Culture Studies)			科目区分	【専門科目】 日本理解専攻(選択)		
担当教員	さちみ りほ		教員コード	252	単位数	2単位	
開講期間	前期	曜日・時限	金曜日・4時限	授業形態	講義		
学位授与方針との対応	<input type="radio"/>	1.大学生としての幅広い教養を身につける		<input type="radio"/>	2.学修を通じて得た専門的な知識を表現する		
	<input type="radio"/>	3.論理的・批判的なものの見方を養う		<input type="radio"/>	4.自己の潜在能力を発見し、問題を解決する		
	<input type="radio"/>	5.学習の過程で発見した課題を探索する		<input checked="" type="radio"/>	6.卒業後の社会生活を豊かに過ごす基礎を養う		
授業概要	マンガの表現方法の理解を深め、批評・分析力・実技力も高める						
授業の狙い・到達目標	原稿を実際に描く(漫画家体験)、評価する(編集体験)他、詩や脚本、小説などにも挑戦することで、理解を深め、実社会に活かせる表現力を身につけることができる。						
授業内容のレベル・関連科目	ポップカルチャー論Ⅰと合わせて受講することを推奨するが、ポップカルチャー論Ⅱだけでも受講可。						
授業外学習(予習・復習)	自分で考えたストーリーや漫画評論の作成・創作が苦手であれば、童話の漫画化なども許容とする。			授業外学習に必要な時間	各回4時間、合計60時間		
使用教科書	著作権の関係上、拙著短篇集や「夢やしきへようこそ」「ローゼリア王国物語」等を用いる。できるだけ貸し出して購入負担を減らす。						
参考書・その他教材	作家の許可を得られた場合、他の作家の作品等も使用する場合もある。						
課題に対するフィードバック	授業で読んだ漫画の続き、セリフのネーム入れ等、その都度提出してもらう。授業中に間に合わなかった場合、翌週提出も可。						
成績評価方法	授業への取り組み(30%)、出席率(40%)、課題・レポート(30%)						
成績評価基準	到達目標の達成度を、本学の学業成績判定に関する規程の基準に基づき評価する。						
履修上の注意事項や学習上の助言	漫画も小説も上手下手ではなく、読み手にわかりやすく、でも面白く伝えることが大切。その基本を教えます。一緒に頑張りましょう。どれほど熱心に参加し、授業に取り組んでいるか、丁寧さやセンス。初めは人真似でもよいので果敢に挑戦すること。						
科目に関連した教員の実務経験	漫画家 平成元年 小学館新人コミック大賞受賞 小学館 秋田書店 ハーパー・コリンズ等で執筆中						
担当教員への連絡方法	メール・LINE・SIGNAL等で受け取ります。 件名に科目名・曜日・時限、本文に学籍番号・氏名を必ず記載すること。						

授業スケジュール

ポップカルチャー論Ⅱ（日本文化研究）

1回	学習内容 予習 復習	漫画論 現代社会における漫画の貢献度とその実践について 好きな漫画を語れるようになっておく 授業内容を反芻し、次回話せるようになっておく
2回	学習内容 予習 復習	キャラクターの見せ方・作り方① 色んなジャンルでの効果的演出法 ノート、鉛筆、絵を描きやすい道具も用意 自分の好きな漫画のイントロ(出だし)なぜ魅力あるのか考えておく
3回	学習内容 予習 復習	実践して1ページ漫画に挑戦 4コマギャグも絵が苦手な人は小説も可 ストーリーを考えてくる(イントロだけで可) 授業中に完成しなかった場合は自宅で完成させる
4回	学習内容 予習 復習	1ページ目の苦労点 その先の話もふくらませ方 課題に渡したマンガを読んでおく(貸し出し予定) どこで効果を狙っているかわかるように
5回	学習内容 予習 復習	キャラクターの見せ方・作り方② 脇役、ライバルなど登場のさせ方 好きな漫画を読んでおく(事前に課題の貸し出しも可) 魅力的なキャラが何故魅力あるのか理解して次授業で言えるように
6回	学習内容 予習 復習	起承転結の起の部分 1ページマンガから先に進める 他の変更可 途中までで良いので考えておく うまく話がまとまるかも考えて 反省点があれば直す
7回	学習内容 予習 復習	絵の効果、背景、ポップカルチャー論Ⅰと被るがこちらでは実践 簡単な絵(背景入りを描いてみる) 反省点があれば直す
8回	学習内容 予習 復習	ストーリーの骨子 起承転結の一番地味な承の部分を解説 16〜30P程度の漫画を想定し、承まで考える(ネーム)、文章(プロット)も可 授業内容を理解し、ページ配分を考える
9回	学習内容 予習 復習	転・結のページ配分 短篇を読みながら実際例を理解する 自分の考えたストーリーの先を考えておく 他の話に移っても可 キャラクターによる話の読み方を理解する
10回	学習内容 予習 復習	各ジャンルでの違いを理解① ファンタジー、時代物、学園者、少年・少女漫画 いろんな漫画を読んでおく 好きなジャンルの漫画を描き始めて見る(下描き)
11回	学習内容 予習 復習	各ジャンルでの違いを理解② 4コマ、ギャグ、シリアス、ホラー等 引き続きどんなジャンルが好きか 好きなジャンルの漫画を描き始めて見る(下描き)
12回	学習内容 予習 復習	これまでのことを踏まえ漫画作品を最後まで制作① 漫画原作、小説、脚本も可 まずジャンルを決め、ぶれないこと 少年向け、子供向け等 自分が伝えたいこと対象は誰かを確認
13回	学習内容 予習 復習	漫画制作② 原作、脚本 短篇なら何本でも可 自宅でも制作を進めておく 直したい点が出てきたら直しておく
14回	学習内容 予習 復習	最終作品提出 何作でも可 ギャグ作品とシリアス作品も可 最後まで丁寧仕上げしておく 反省点があれば振り返る
15回	学習内容 予習 復習	完成作品を返却 自分の作品や授業の感想 実践してみてわかったことなど 半年間の授業の感想を考えておく 今後、自分が読むなら、また描くなら、どこに注目するかを考える